

# 山梨市住民意向調査 報告書

平成 26 年 3 月



公益財団法人 山梨総合研究所

## 目 次

<b>1. 調査概要</b> .....	<b>1</b>
① 調査の目的.....	1
② 調査時期.....	1
③ 調査対象.....	1
④ 調査方法.....	1
⑤ アンケート内容.....	1
⑥ 回収結果.....	2
⑦ 本報告書中の記号、調査結果の数値について.....	2
<b>2. 回答者の属性（SA）</b> .....	<b>3</b>
① 性別.....	3
② 年齢.....	4
③ 居住地区.....	5
④ 居住年数.....	6
⑤ 家族構成.....	7
⑥ 職業.....	8
⑦ 通勤・通学先 .....	9
<b>3. 山梨市の魅力・住みやすさ</b> .....	<b>10</b>
① 山梨市の魅力について.....	10
② 山梨市の住みやすさについて .....	11
③ 山梨市に対する愛着について.....	12
<b>4. 満足度、重要度等</b> .....	<b>13</b>
<b>5. 分野ごとの各施策の必要性</b> .....	<b>15</b>
① 環境問題やエネルギー問題に対応するための具体的な取り組み.....	15
② 産業（農林業・商業・工業・観光業）が発展するための具体的な取り組み .....	16
③ 観光を盛んにするための具体的な取り組み .....	18
④ 高齢化が進む社会に対応するための具体的な取り組み .....	19
⑤ 安心して子どもを産み育てたいと思える環境をつくるための具体的な取り組み .....	22
⑥ 災害に強いまちづくりを推進するための具体的な取り組み.....	25
⑦ 学校教育・生涯学習の分野での具体的な取り組み .....	26
<b>6. 市民と行政とのあり方について</b> .....	<b>27</b>
① 行財政改革や現在の行政サービスの水準と負担の関係について.....	27

② 今後参加したい公共的な活動.....	28
7. 山梨市の将来像や望ましい地域イメージについて.....	31
8. まちづくり指標について.....	32
9. 男女共同参画について.....	33
10. 健康づくりについて.....	35
11. 生涯学習について.....	36
12. 市営バスの利用について.....	37
13. 資料／アンケート調査票.....	42

## 1. 調査概要

### ① 調査の目的

山梨市の主な施策に対する、市民の満足度や必要度を把握し、住民のニーズに対応した施策を推進するための基礎資料とする。併せて、総合計画に示されたまちづくり指標についても確認する。

### ② 調査時期

アンケート期間：平成 25 年 11 月 1 日(金)～11 月 22 日(金)

※調査票回収期間は 12 月 10 日(火)まで延長した。

また、記入に際しての基準日は平成 25 年 11 月 1 日とした。

### ③ 調査対象

20 歳以上の市民 2,000 人を対象とした。

標本抽出方法としては、旧市町村ごとの人口に注目した比例配分法による層化無作為抽出を行った。

### ④ 調査方法

郵送配布・郵送回収方式

### ⑤ アンケート内容

大項目	小項目	対応設問	設問数
山梨市の魅力・ 住みやすさ	山梨市の魅力	問 1	1 5
	山梨市の住みやすさ	問 2	1
	山梨市に対する愛着	問 3	1
満足度・重要度	施策に対する満足度と重要度の認識	問 4	各 2 6
分野ごとの各施策の 必要性	環境エネルギー分野	問 5	9
	産業（農林業・商業・工業・観光業）分野	問 6	1 2
	観光分野	問 7	9
	高齢者福祉分野	問 8	1 1
	次世代育成（子育て）分野	問 9	8
	防災分野	問 1 0	1 1
	学校教育・生涯学習分野	問 1 1	1 2
市民と行政との あり方	行財政改革と市民負担	問 1 2	5
	今後参加したい公共活動	問 1 3	1
山梨市の将来像 と望ましい地域 イメージ	10 年後の山梨市について	問 1 4	1
まちづくり指標	総合計画に示すまちづくり指標について	問 1 5	1 2
男女共同参画の 実現	男女共同参画の認知度、状況について	問 1 6	9
健康・生涯学習	健康づくり	問 1 7	1
	生涯学習	問 1 8	1
市営バス利用状況	利用頻度・利用目的	問 1 9	4
自由意見		問 2 0	1

⑥ 回収結果

送付数：2,000

回収数：1,226

有効回収数：1,226

有効回収率：61.3%

⑦ 本報告書中の記号、調査結果の数値について

(SA) … 単一回答 (Single Answer) の略。選択回答は1項目のみ。

(MA) … 複数回答 (Multi Answer) の略。

(一部回答を限定しているものもある。)

複数回答における回答率は100%を超える場合があります。

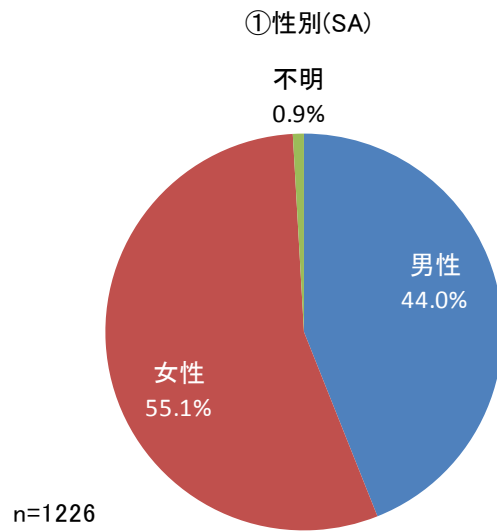
n …… 回答者数 (number) をあらわす。「n=100」は、回答者数が100人ということ。

※ 各回答項目の構成比は、小数点第二位を四捨五入しているため、各項目の合計が100%にならない場合もあります。

## 2. 回答者の属性(SA)

### ① 性別

今回のアンケート調査で回答が得られた1,226人のうち、男性は44.0%、女性は55.1%であった。

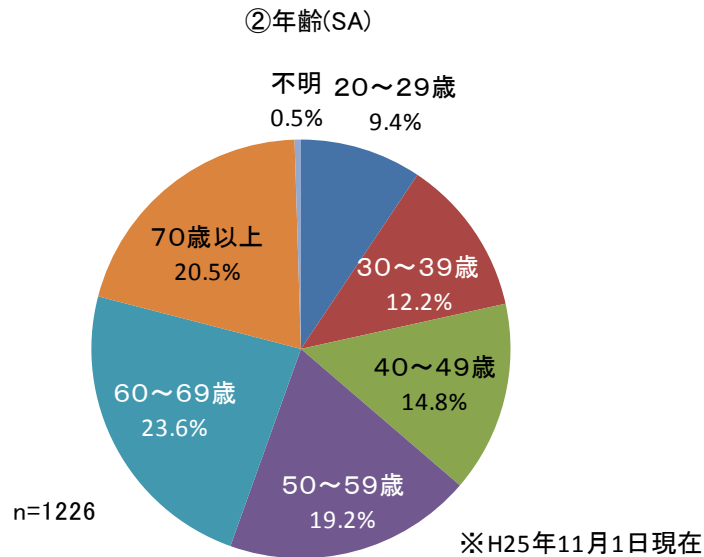


カテゴリ	件	%
男性	539	44.0
女性	676	55.1
不明	11	0.9
計	1226	100.0

## ② 年齢

今回のアンケート調査に回答した市民の年齢構成は、「60歳代」が23.6%と最も高く、「70歳以上」(20.5%)、「50歳代」(19.2%)と続いた。

その一方、最も低いのは「20歳代」で9.4%だった。

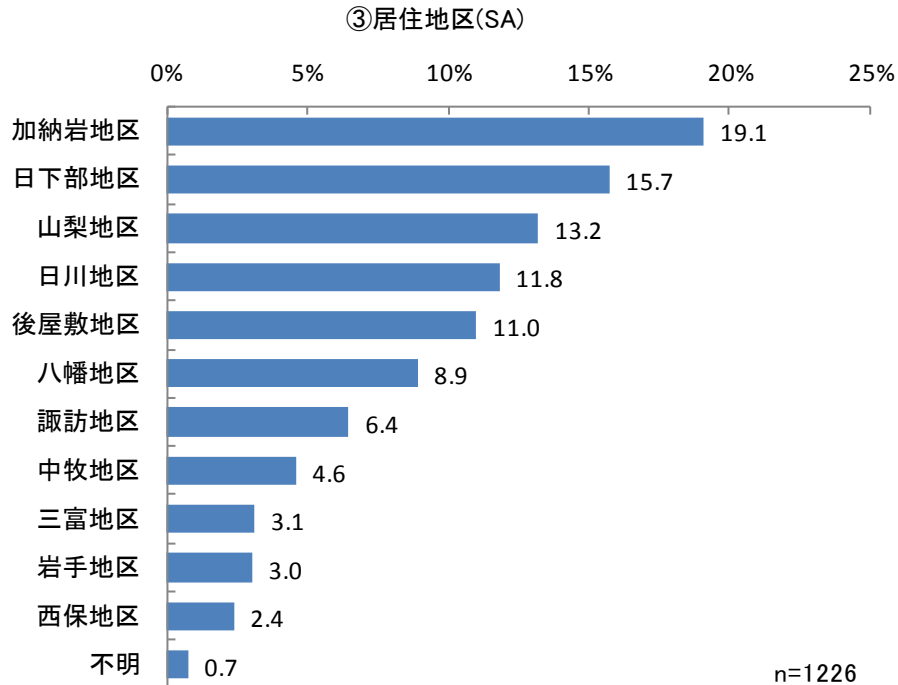


カテゴリ	件	%
20～29歳	115	9.4
30～39歳	149	12.2
40～49歳	181	14.8
50～59歳	235	19.2
60～69歳	289	23.6
70歳以上	251	20.5
不明	6	0.5
計	1226	100.0

### ③ 居住地区

今回のアンケート調査に回答した市民の居住地の割合は、「加納岩地区」が19.1%と最も高く、次いで「日下部地区」(15.7%)、「山梨地区」(13.2%)と続いた。

各地区の20歳以上の人口に対する回答者の割合は3.2%~4.8%となっている。



カテゴリ	件	%
加納岩地区	234	19.1
日下部地区	193	15.7
山梨地区	162	13.2
日川地区	145	11.8
後屋敷地区	135	11.0
八幡地区	109	8.9
諏訪地区	79	6.4
中牧地区	56	4.6
三富地区	38	3.1
岩手地区	37	3.0
西保地区	29	2.4
不明	9	0.7
計	1,226	100.0

地区名	① 20歳以上人口	② 回答者数	各地区20歳以上人口に対する回答者数の割合 (②/①)
加納岩地区	5,903	234	4.0%
日下部地区	5,670	193	3.4%
八幡地区	3,013	109	3.6%
山梨地区	3,862	162	4.2%
日川地区	3,024	145	4.8%
後屋敷地区	2,845	135	4.7%
岩手地区	938	37	3.9%
諏訪地区	2,449	79	3.2%
中牧地区	1,367	56	4.1%
西保地区	656	29	4.4%
三富地区	888	38	4.3%
合計	※130,615	※21,217	4.0%

※1 20歳以上人口 平成25年11月1日現在

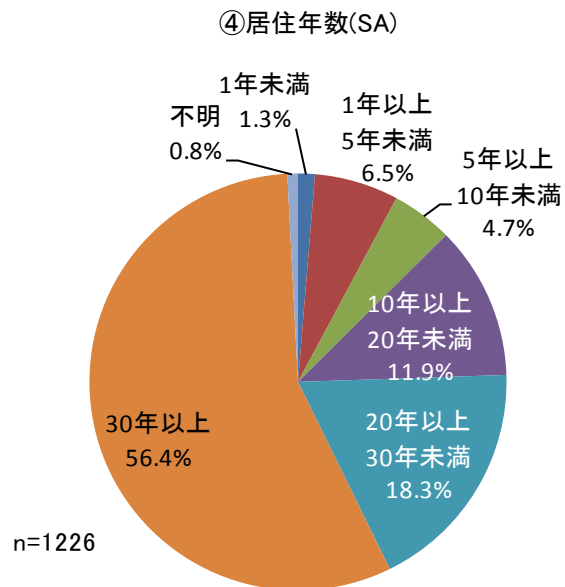
※2 地区無回答 9件



#### ④ 居住年数

今回のアンケート調査における回答者の、山梨市（旧牧丘町・三富村を含む）への居住年数は、「30年以上」が最も高く、半数を超える56.4%を占めた。次いで「20年以上30年未満」が18.3%、「10年以上20年未満」が11.9%だった。

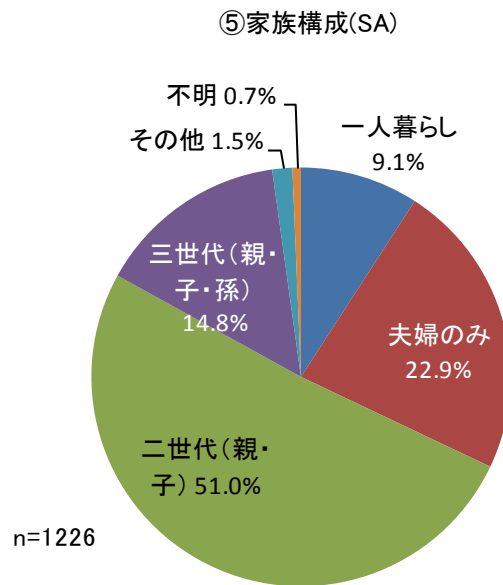
居住年数が10年以上の回答者が、全回答者の86.6%を占めている。



カテゴリ	件	%
1年未満	16	1.3
1年以上 5年未満	80	6.5
5年以上 10年未満	58	4.7
10年以上 20年未満	146	11.9
20年以上 30年未満	224	18.3
30年以上	692	56.4
不明	10	0.8
計	1,226	100.0

## ⑤ 家族構成

今回のアンケート調査における回答者の家族構成は、「二世代（親・子）」が最も高く51.0%を占めた。次いで「夫婦のみ」22.9%、「三世代（親・子・孫）」の14.8%の順となった。「一人暮らし」は、9.1%だった。

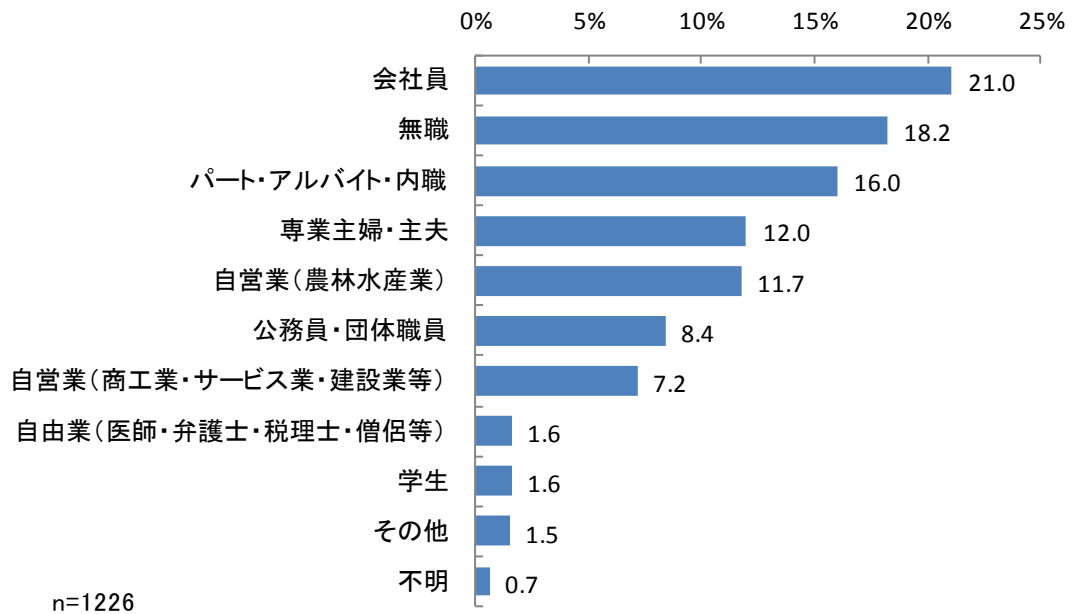


カテゴリ	件	%
一人暮らし	112	9.1
夫婦のみ	281	22.9
二世代(親・子)	625	51.0
三世代(親・子・孫)	181	14.8
その他	19	1.5
不明	8	0.7
計	1,226	100.0

## ⑥ 職業

今回のアンケート調査の回答者の職業では、「会社員」が最も高く 21.0%、次いで「無職」が 18.2%、「パート・アルバイト・内職」が 16.0%だった。

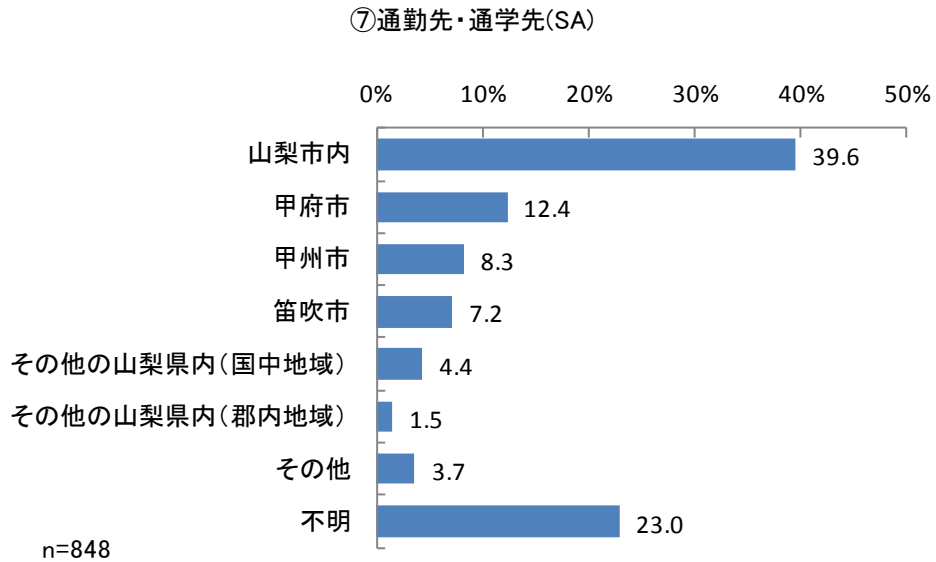
⑥主な職業(SA)



カテゴリ	件	%
会社員	258	21.0
無職	223	18.2
パート・アルバイト・内職	196	16.0
専業主婦・主夫	147	12.0
自営業(農林水産業)	144	11.7
公務員・団体職員	103	8.4
自営業(商工業・サービス業・建設業等)	88	7.2
自由業(医師・弁護士・税理士・僧侶等)	20	1.6
学生	20	1.6
その他	19	1.5
不明	8	0.7
計	1,226	100.0

### ⑦ 通勤・通学先

今回のアンケート調査における回答者の通勤・通学先は、山梨市内が最も高く 39.6%、次いで甲府市が 12.4%、甲州市が 8.3%、笛吹市が 7.2%だった。



カテゴリ	件	%
山梨市内	336	39.6
甲府市	105	12.4
甲州市	70	8.3
笛吹市	61	7.2
その他の山梨県内(国中地域)	37	4.4
その他の山梨県内(郡内地域)	13	1.5
その他	31	3.7
不明	195	23.0
計	848	100.0

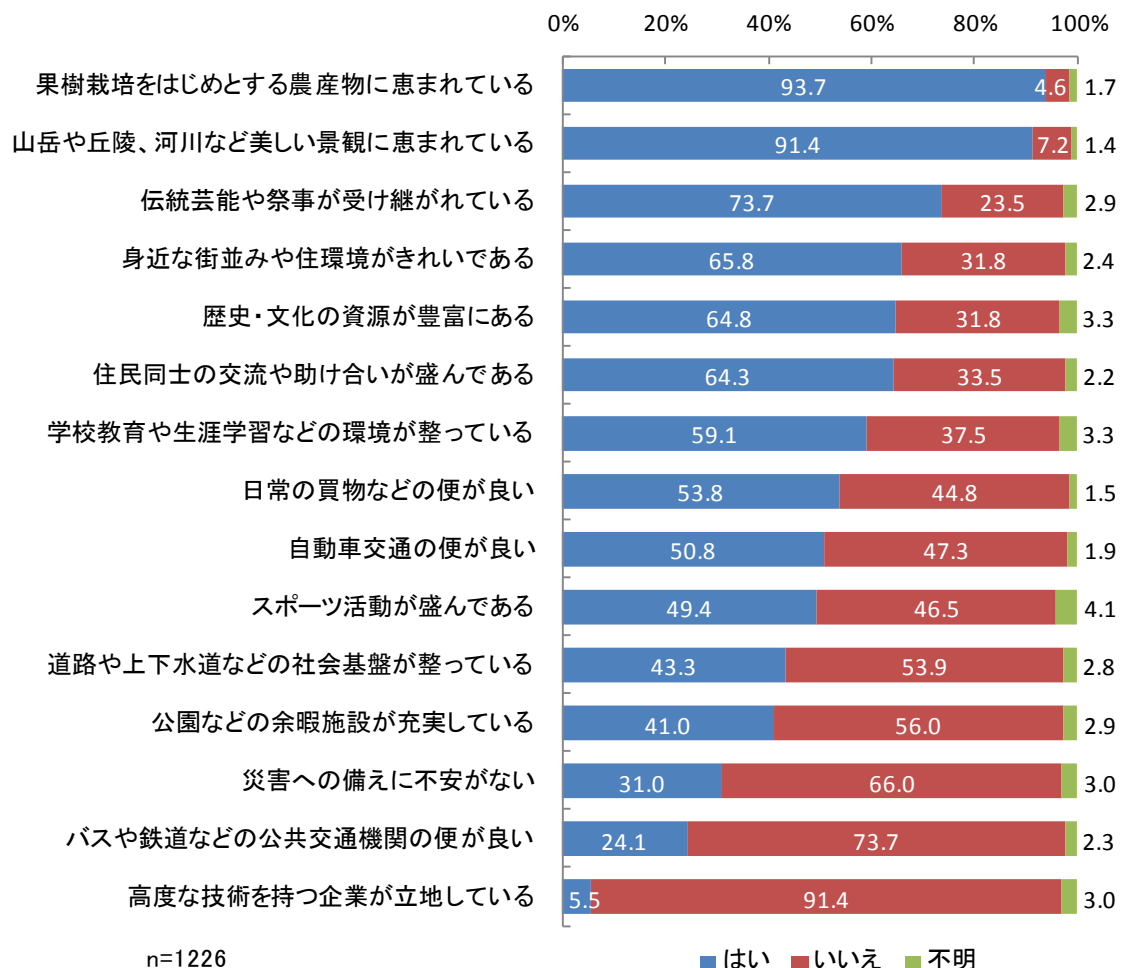
### 3. 山梨市の魅力・住みやすさ

#### ① 山梨市の魅力について

山梨市の魅力についてたずねた。肯定する「はい」という回答が最も高かったのは、「果樹栽培をはじめとする農産物に恵まれている」で93.7%、続いて「山岳や丘陵、河川など美しい景観に恵まれている」が91.4%、「伝統芸能や祭事が受け継がれている」が73.7%であった。

逆に、否定する「いいえ」という回答が高かったのは、「高度な技術を持つ企業が立地している」が91.4%、「バスや鉄道などの公共交通機関の便が良い」が73.7%、「災害への備えに不安がない」が66.0%であった。特に「高度な技術を持つ企業が立地している」がひとときわ高い結果となった。

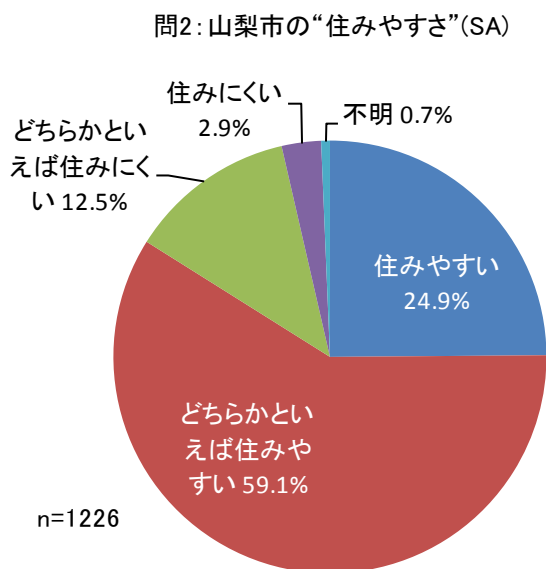
問1: 山梨市の魅力(SA)



## ② 山梨市の住みやすさについて

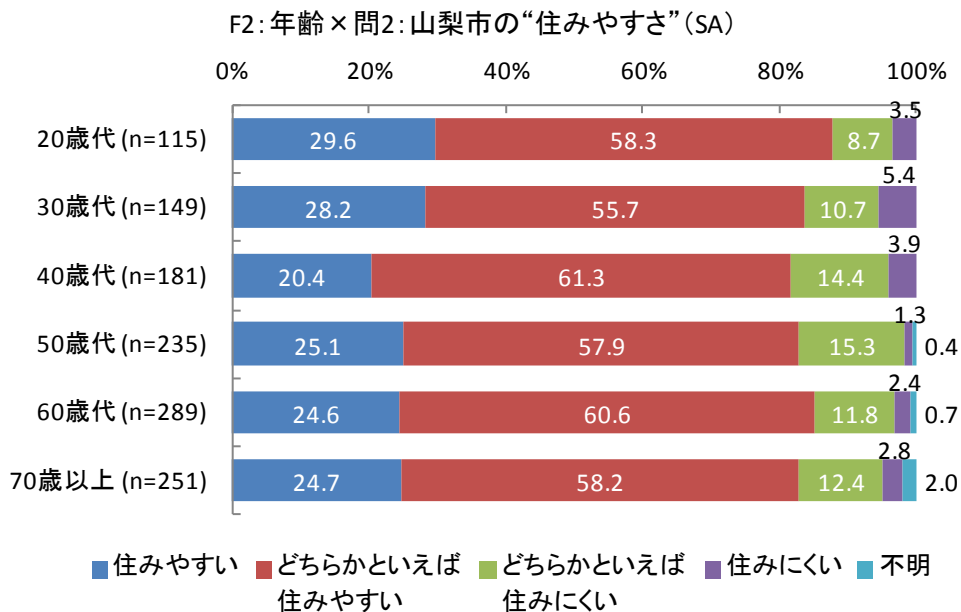
山梨市の住みやすさについてたずねた。「住みやすい」が 24.9%、「どちらかといえば住みやすい」が 59.1%と、住みやすさに対して肯定的な回答が 84.0%を占めた。

「住みにくい」は 2.9%であり、「どちらかといえば住みにくい」(12.5%)とあわせ否定的な回答は 15.4%あった。



山梨市の住みやすさについて年代別に集計すると、肯定的な回答が最も高くなっているのは、「20歳代」で 87.9%、次いで「60歳代」で 85.2%だった。

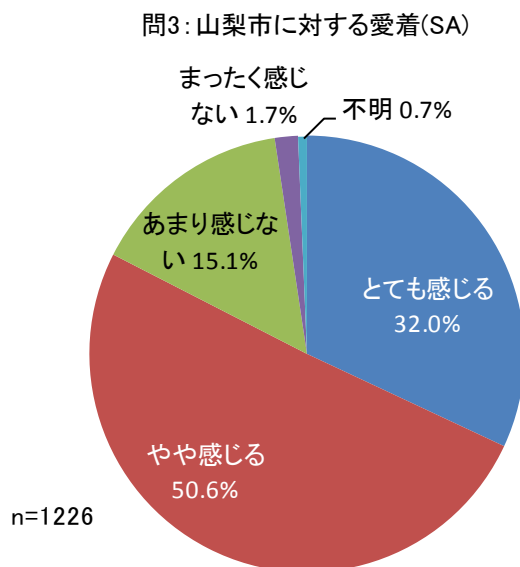
以下「30歳代」(83.9%)、「50歳代」(83.0%)、「70歳以上」(82.9%)、「40歳代」(81.7%)と続いているが、いずれも全体集計の 84.0%を下回っている。



### ③ 山梨市に対する愛着について

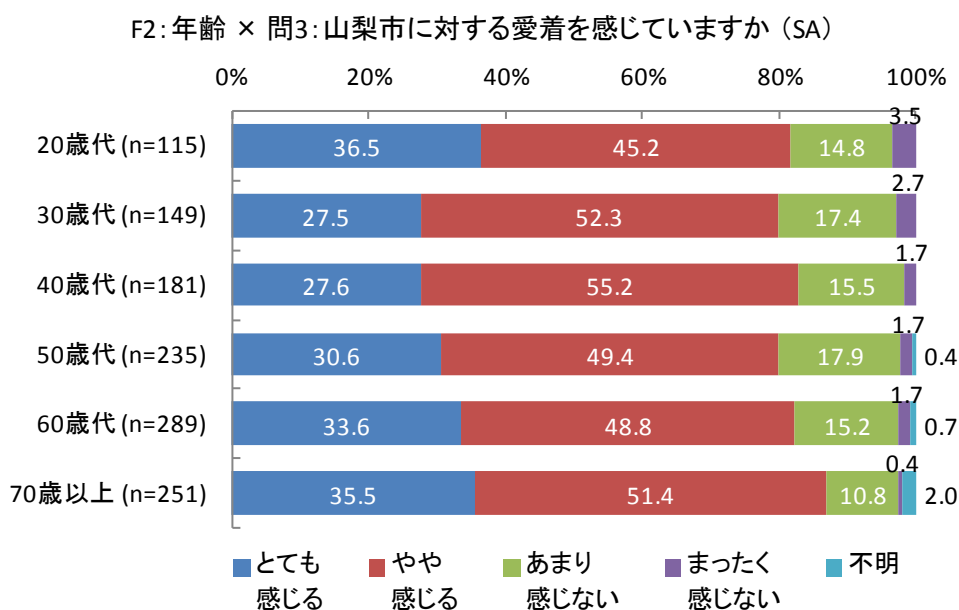
山梨市に対する愛着をたずねた。「とても感じる」が32.0%、「やや感じる」が50.6%と、肯定的な回答が82.6%を占めた。

「まったく感じない」は1.7%であり、「あまり感じない」(15.1%)とあわせ否定的な意見は16.8%あった。



山梨市に対する愛着について年代別に集計すると、肯定的な回答が最も高くなっているのは、「70歳代以上」で86.9%、次いで「40歳代」で82.8%だった。

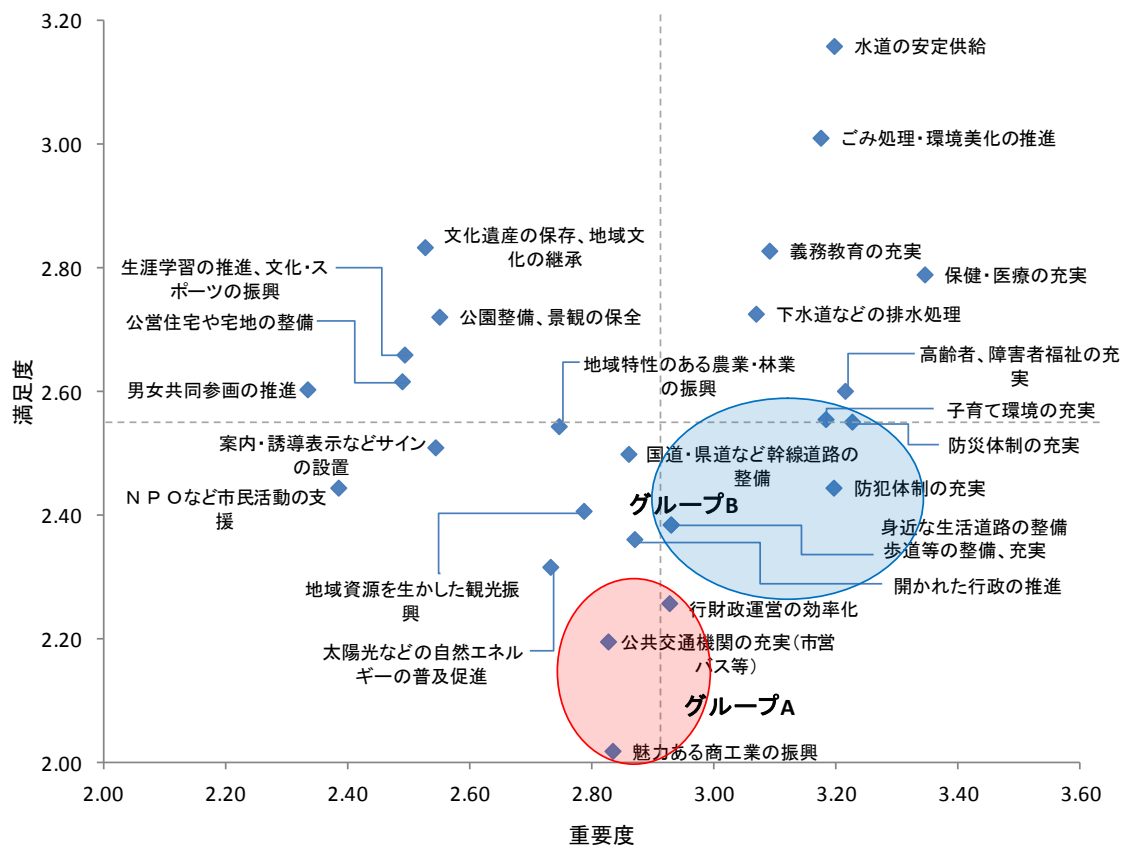
以下「60歳代」(82.4%)、「20歳代」(81.7%)、「50歳」(80.0%)、「30歳代」(79.8%)と続いており、いずれも全体集計の82.6%を下回っているが、「20歳代」においては「とても感じる」(36.5%)と答えた割合が最も高い。



#### 4. 満足度、重要度等

市が実施する施策にどの程度満足しているのかということと、各施策をどの程度重要であると考えているのかを、満足度と重要度としてたずねた。満足度については、「満足している」、「やや満足している」、「やや不満である」、「不満である」の4段階で、重要度については、「きわめて重要である」、「かなり重要である」、「まあ重要である」、「あまり重要ではない」の4段階でたずねた。集計に当たっては、満足度、重要度が高いほうから低いほうに向かって、4点、3点、2点、1点を割り振り、各施策について回答者の平均点を算出した。計算の結果を、重要度を横軸に、満足度を縦軸にとり、散布図形式で示した。

なお、図中に示した点線は、満足度、重要度の全体の平均値（満足度 2.56 重要度 2.86）を表している。





グループAは、満足度が特に低くなっており、以下の3施策が含まれる。

施策	満足度の点数
魅力ある商工業の振興	2.02
公共交通機関の充実（市営バス等）	2.20
行財政運営の効率化	2.26

グループBは、市民の重要度の認識は高いものの、満足度がやや低くなっており、以下の5施策が含まれる。

施策	満足度の点数	重要度の点数
身近な生活道路の整備	2.39	2.93
歩道等の整備、充実	2.39	2.93
防犯体制の充実	2.45	3.20
防災体制の充実	2.55	3.23
子育て環境の充実	2.56	3.18

満足度

	カテゴリ	満足度
1	水道の安定供給	3.16
2	ごみ処理・環境美化の推進	3.01
3	文化遺産の保存、地域文化の継承	2.83
4	義務教育の充実	2.83
5	保健・医療の充実	2.79
6	下水道などの排水処理	2.73
7	公園整備、景観の保全	2.72
8	生涯学習の推進、文化・スポーツの振興	2.66
9	公営住宅や宅地の整備	2.62
10	男女共同参画の推進	2.60
11	高齢者、障害者福祉の充実	2.60
12	子育て環境の充実	2.56
13	防災体制の充実	2.55
14	地域特性のある農業・林業の振興	2.54
15	案内・誘導表示などサインの設置	2.51
16	国道・県道など幹線道路の整備	2.50
17	防犯体制の充実	2.45
18	NPOなど市民活動の支援	2.45
19	地域資源を生かした観光振興	2.41
20	身近な生活道路の整備	2.39
21	歩道等の整備、充実	2.39
22	開かれた行政の推進	2.36
23	太陽光などの自然エネルギーの普及促進	2.32
24	行財政運営の効率化	2.26
25	公共交通機関の充実（市営バス等）	2.20
26	魅力ある商工業の振興	2.02

重要度

	カテゴリ	重要度
1	保健・医療の充実	3.35
2	防災体制の充実	3.23
3	高齢者、障害者福祉の充実	3.21
4	水道の安定供給	3.20
5	防犯体制の充実	3.20
6	子育て環境の充実	3.18
7	ごみ処理・環境美化の推進	3.17
8	義務教育の充実	3.09
9	下水道などの排水処理	3.07
10	身近な生活道路の整備	2.93
11	歩道等の整備、充実	2.93
12	行財政運営の効率化	2.93
13	開かれた行政の推進	2.87
14	国道・県道など幹線道路の整備	2.86
15	魅力ある商工業の振興	2.83
16	公共交通機関の充実（市営バス等）	2.83
17	地域資源を生かした観光振興	2.79
18	地域特性のある農業・林業の振興	2.75
19	太陽光などの自然エネルギーの普及促進	2.73
20	公園整備、景観の保全	2.55
21	案内・誘導表示などサインの設置	2.54
22	文化遺産の保存、地域文化の継承	2.53
23	生涯学習の推進、文化・スポーツの振興	2.49
24	公営住宅や宅地の整備	2.49
25	NPOなど市民活動の支援	2.38
26	男女共同参画の推進	2.33

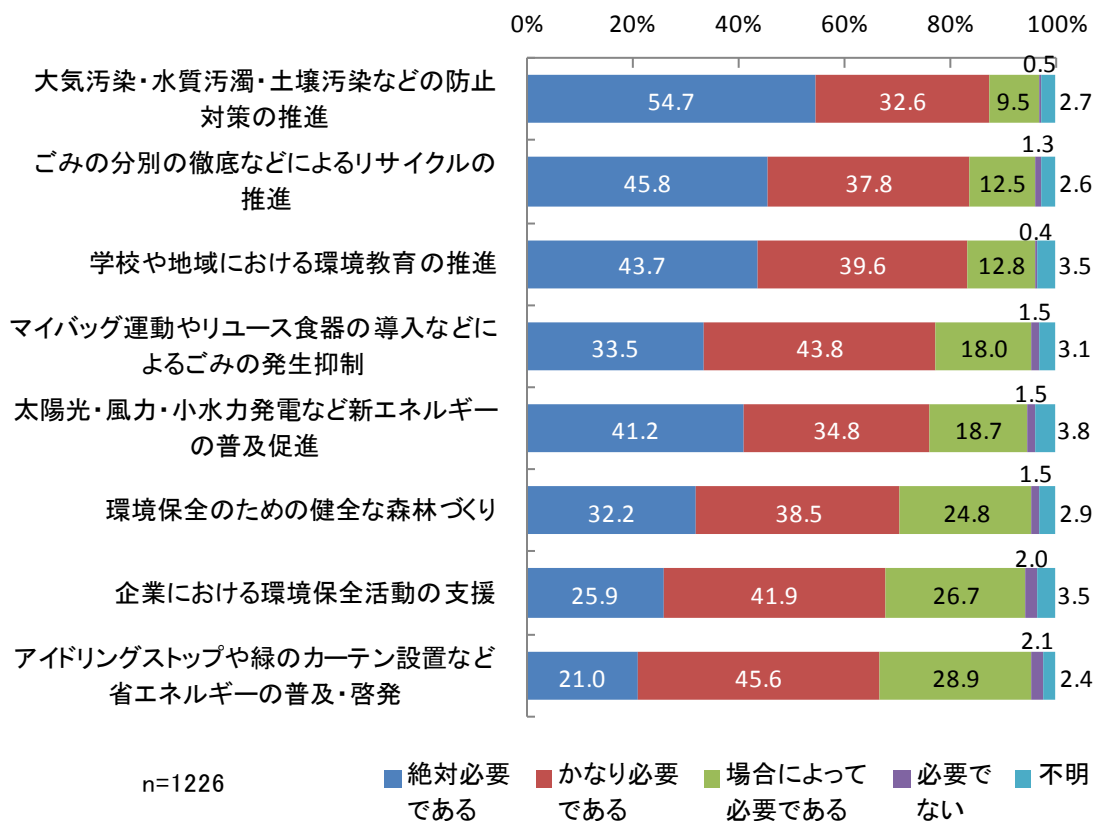
## 5. 分野ごとの各施策の必要性

設問ごとに、「絶対必要である」、「かなり必要である」、「場合によって必要である」、「必要でない」の4段階でたずねた。

### ① 環境問題やエネルギー問題に対応するための具体的な取り組み

「絶対必要である」「かなり必要である」の合計値が最も高かったのは、「大気汚染・水質汚濁・土壌汚染などの防止対策の推進」の87.3%であり、以下「ごみの分別の徹底などによるリサイクルの推進」(83.6%)、「学校や地域における環境教育の推進」(83.3%)の順となっている。

問5: 環境問題やエネルギー問題に対応するための具体的な取り組み(SA)

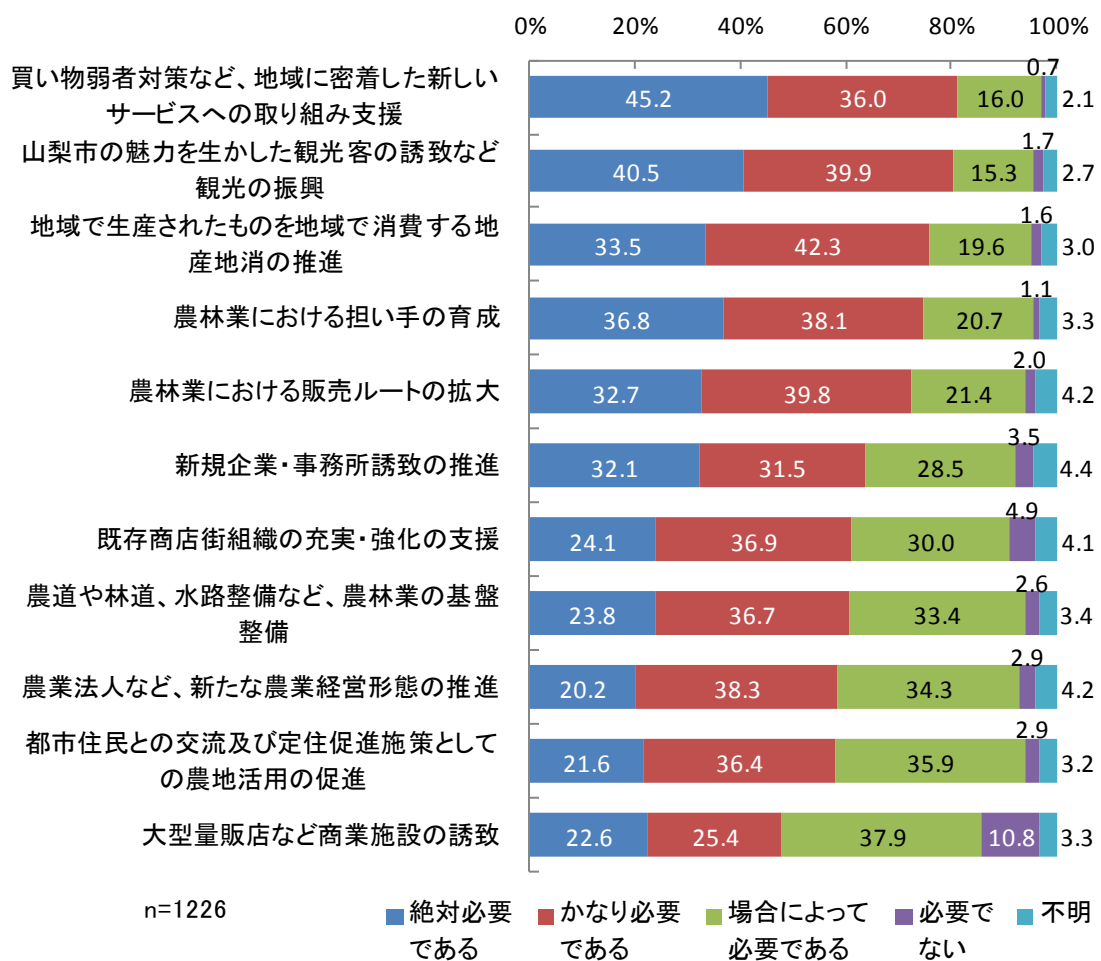


② 産業（農林業・商業・工業・観光業）が発展するための具体的な取り組み

「絶対必要である」「かなり必要である」の合計値が最も高かったのは、「買い物弱者対策など、地域に密着した新しいサービスへの取り組み支援」の81.2%であり、以下「山梨市の魅力を生かした観光客の誘致など観光の振興」（80.4%）、「地域で生産されたものを地域で消費する地産地消の推進」（75.8%）の順となっている。

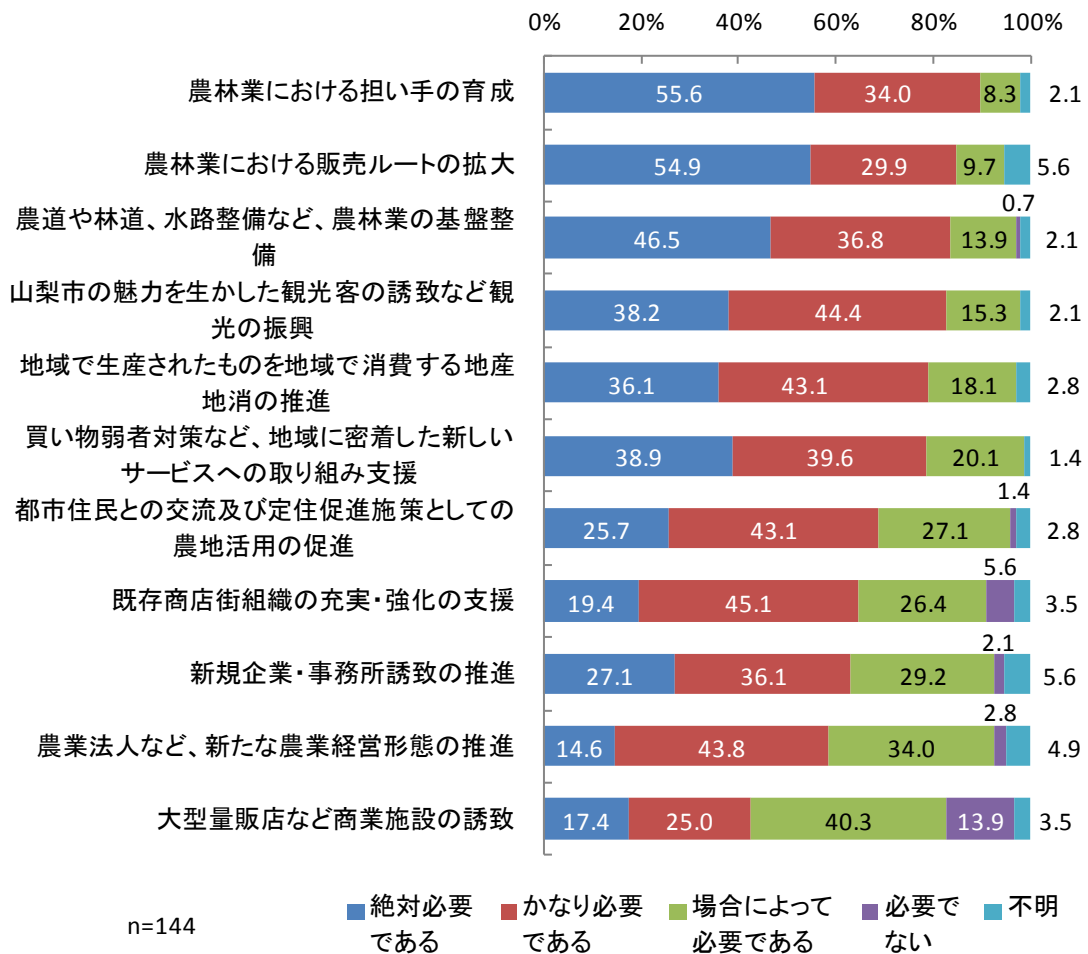
「買い物弱者対策など、地域に密着した新しいサービスへの取り組み支援」は新規に設置した項目であるが、生活に密着した部分だけに市民の関心が高くなったと推察される。

問6：産業（農林業・商業・工業・観光業）が発展するための具体的な取り組み(SA)



産業が発展するための具体的な取り組みについて、農林水産業を営む回答者に限定して集計すると、「絶対必要である」「かなり必要である」の合計が最も高いのは「農林業における担い手の育成」の89.6%となっており、農林業における後継者不足解消が重要な課題であることが見受けられる。

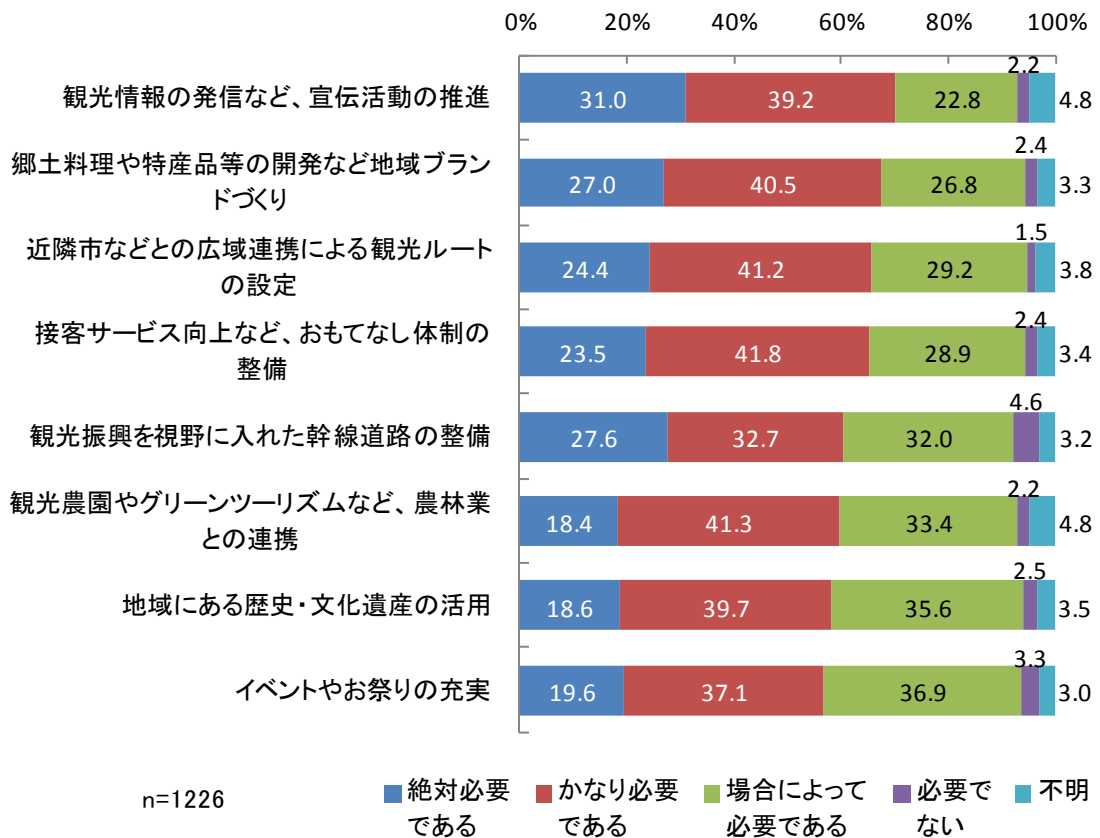
F6:職業【農林水産業】× 問7:産業(農林業・商業・工業・観光業)が発展するための具体的な取り組み(SA)



### ③ 観光を盛んにするための具体的な取り組み

「絶対必要である」「かなり必要である」の合計値が最も高かったのは、「観光情報の発信など、宣伝活動の推進」の70.2%であり、以下「郷土料理や特産品等の開発など地域ブランドづくり」(67.5%)、「近隣市などとの広域連携による観光ルートの設定」(65.6%)、「接客サービス向上など、おもてなし体制の整備」(65.3%)の順となっている。

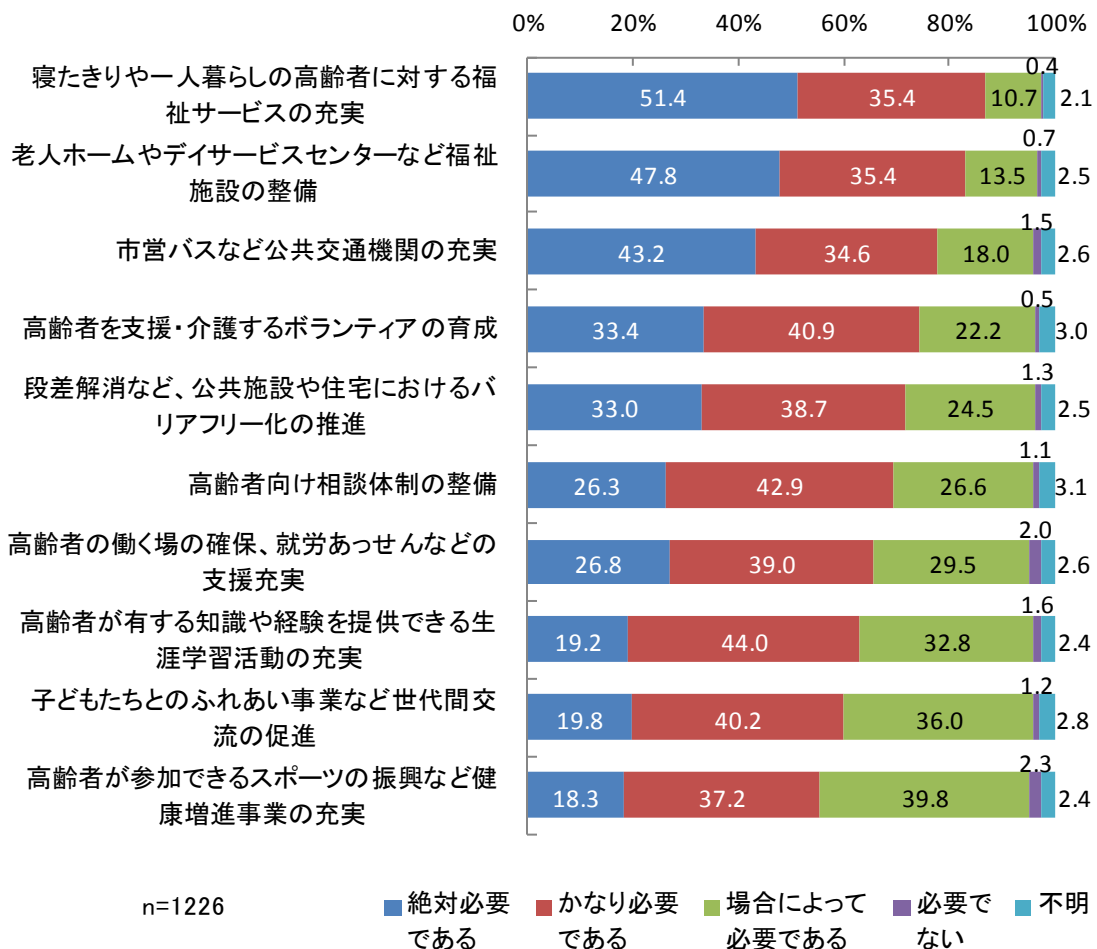
問7: 観光を盛んにするための具体的な取り組み(SA)



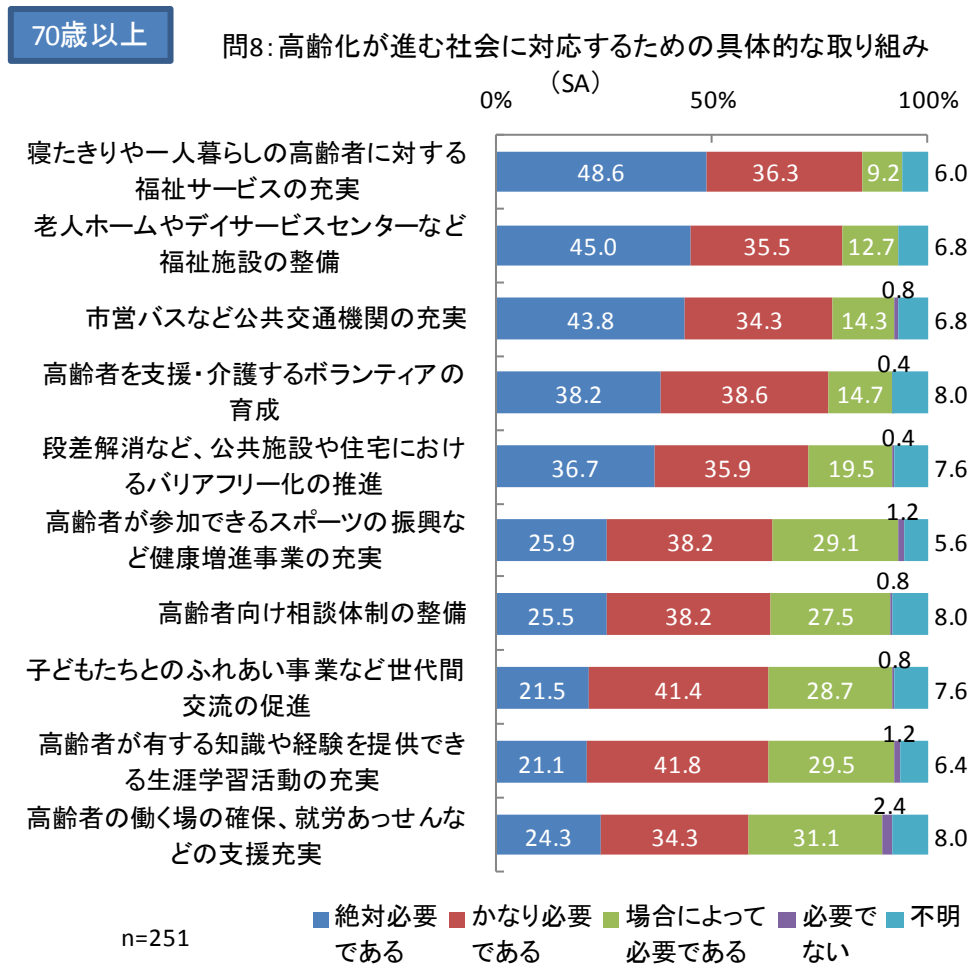
#### ④ 高齢化が進む社会に対応するための具体的な取り組み

「絶対必要である」「かなり必要である」の合計値が最も高かったのは、「寝たきりや一人暮らしの高齢者に対する福祉サービスの充実」の86.8%であり、以下「老人ホームやデイサービスセンターなど福祉施設の整備」(83.2%)、「市営バスなど公共交通機関の充実」(77.8%)の順となっている。

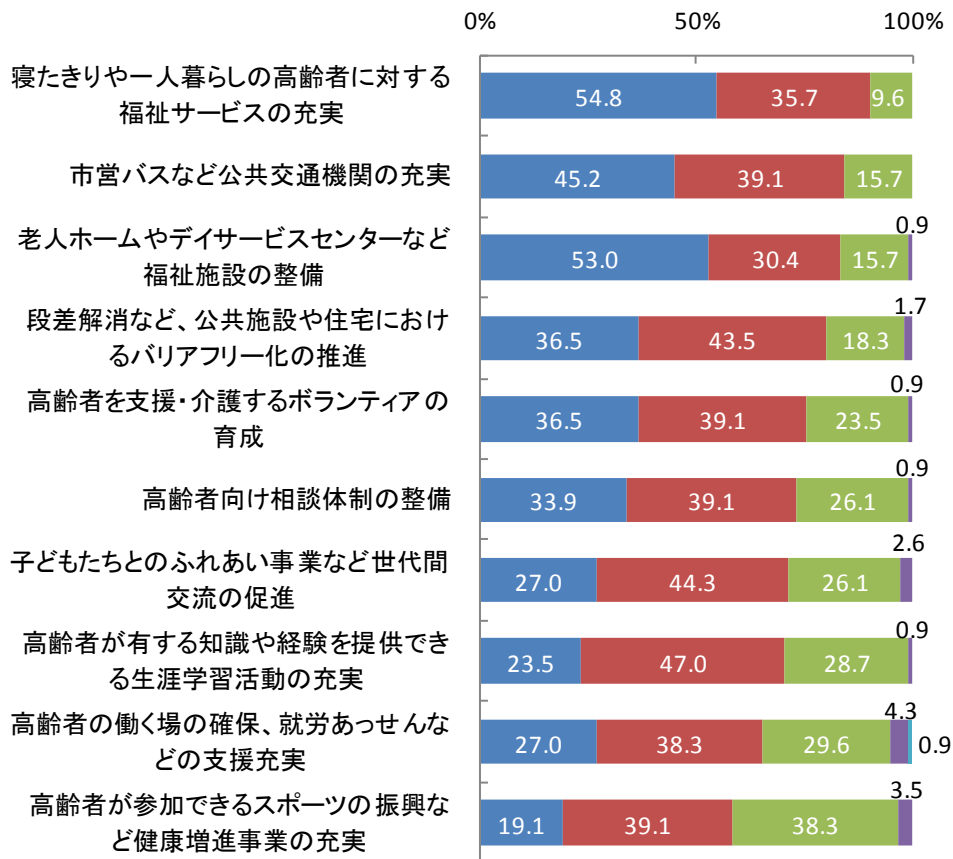
問8: 高齢化が進む社会に対応するための具体的な取り組み(SA)



同じ質問を年代別（70 歳以上、20 歳代）で集計しても全体的に大きな違いはなく、上位 3 項目については順序こそ違いますが同じ項目が占めており、「寝たきりや一人暮らしの高齢者に対する福祉サービスの充実」（84.9%、90.5%）、「老人ホームやデイサービスセンターなど福祉施設の整備」（80.5%、83.4%）、「市営バスなど公共交通機関の充実」（78.1%、84.3%）となっている。



問8: 高齢化が進む社会に対応するための具体的な取り組み  
(SA)



n=148

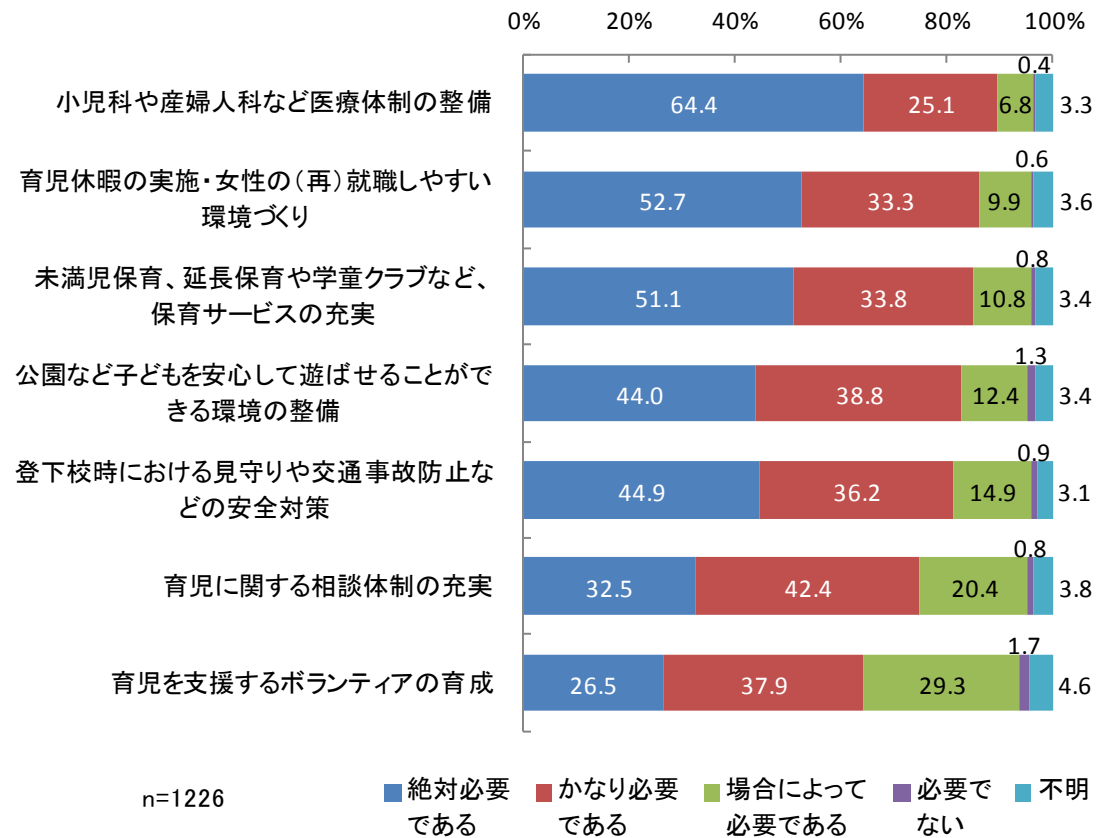
■ 絶対必要である ■ かなり必要である ■ 場合によっては必要である ■ 必要でない ■ 不明



⑤ 安心して子どもを産み育てたいと思える環境をつくるための具体的な取り組み

「絶対必要である」「かなり必要である」の合計値が最も高かったのは、「小児科や産婦人科など医療体制の整備」(89.5%)であり、以下「育児休暇の実施・女性の(再)就職しやすい環境づくり」(86.0%)、「未満児保育、延長保育や学童クラブなど、保育サービスの充実」(84.9%)の順となっている。

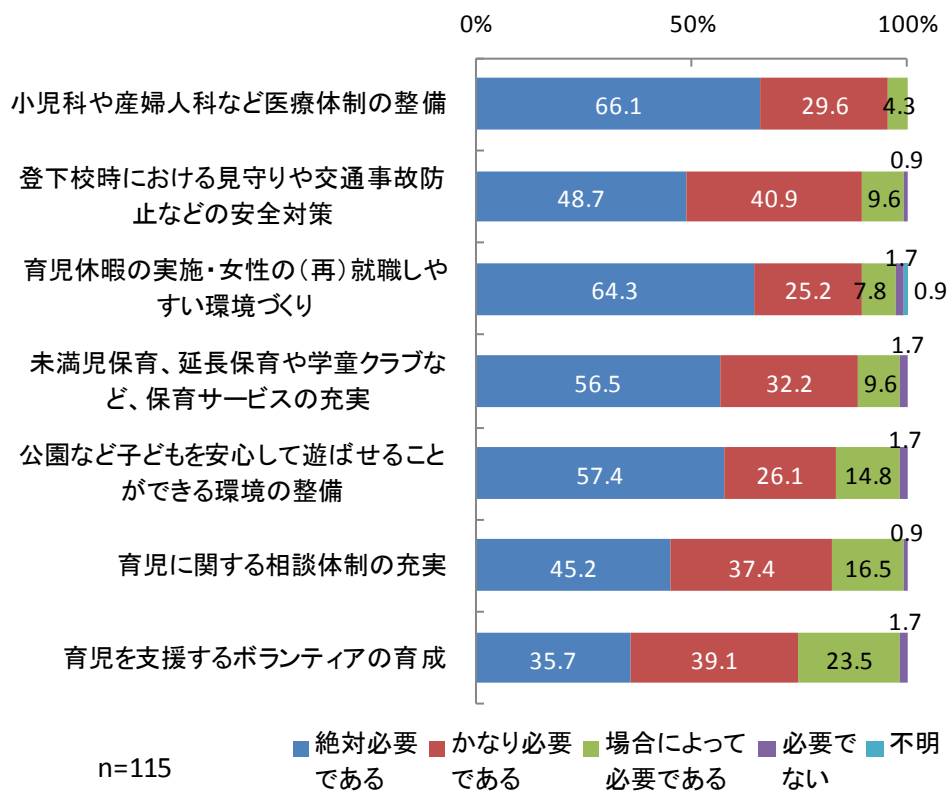
問9: 安心して子どもを産み育てたいと思える環境をつくるための具体的な取り組み(SA)



同じ質問を 20、30、40 歳代に限定すると、いずれの年代においても同様の傾向がみられ、「小児科や産婦人科など医療体制の整備」の「絶対必要である」と回答した割合が最も割合が高かった。20 歳代においては「登下校時における見守りや交通事故防止などの安全対策」を「必要である」と回答する割合が高くなった。

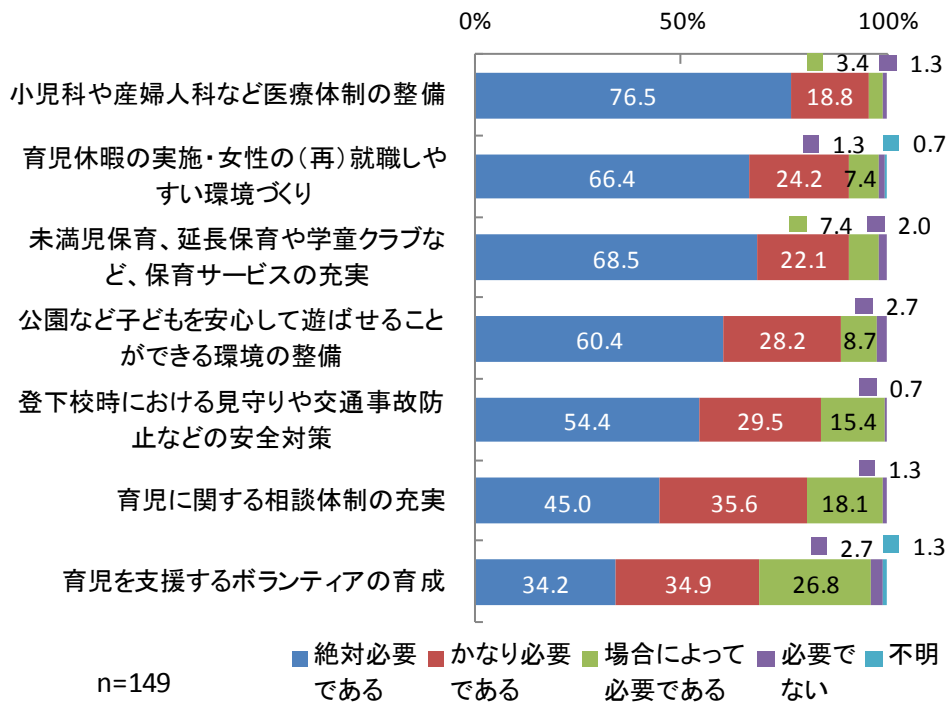
20歳代

問9: 安心して子どもを産み育てたいと思える環境をつくるための具体的な取り組み (SA)



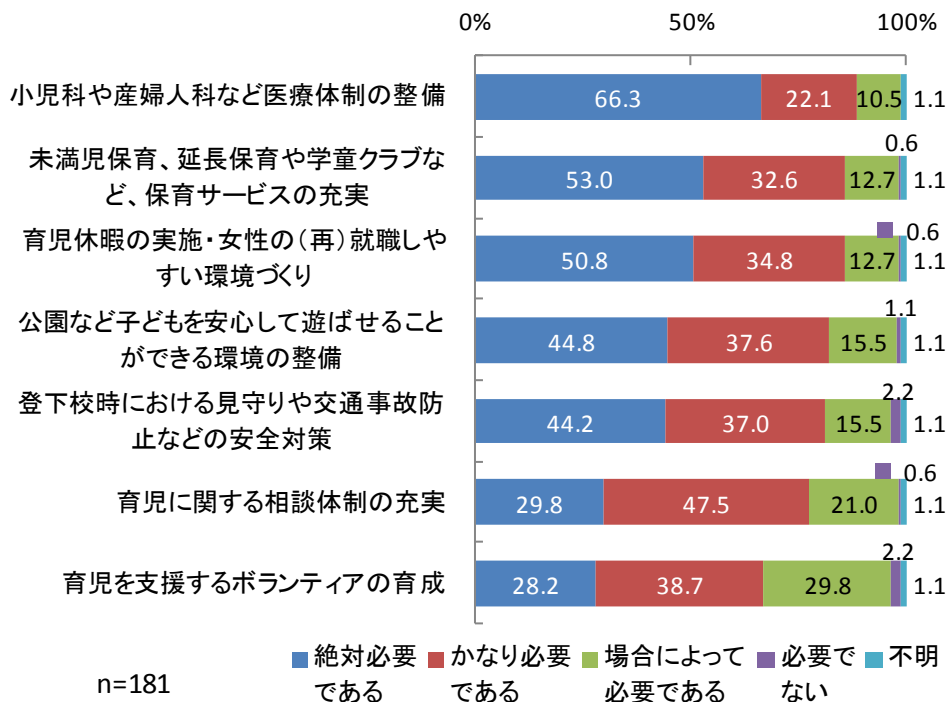
30歳代

問9: 安心して子どもを産み育てたいと思える環境をつくるための具体的な取り組み (SA)



40歳代

問9: 安心して子どもを産み育てたいと思える環境をつくるための具体的な取り組み (SA)

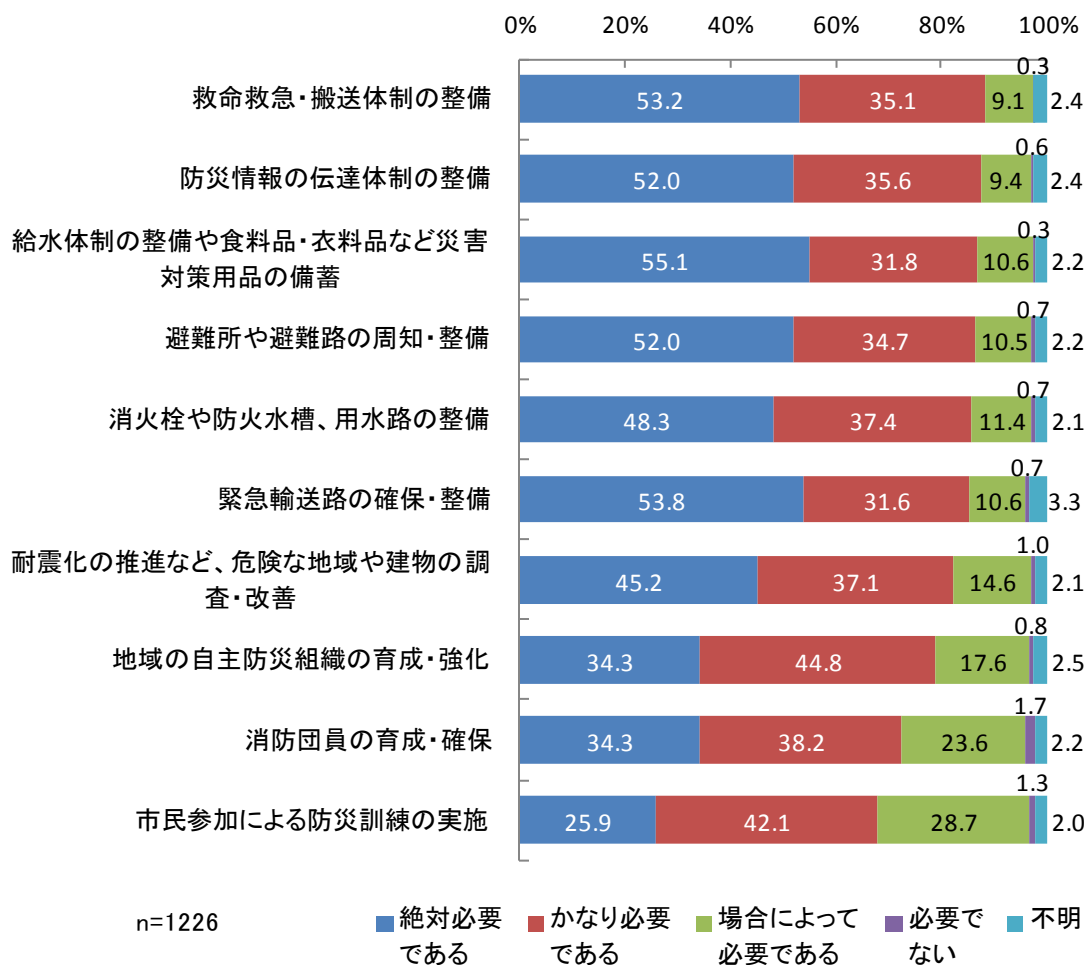


## ⑥ 災害に強いまちづくりを推進するための具体的な取り組み

「絶対必要である」「かなり必要である」の合計値が最も高かったのは、「救命救急・搬送体制の整備」の88.3%で、以下「防災情報の伝達体制の整備」(87.6%)、「給水体制の整備や食料品・衣料品など災害対策用品の備蓄」(86.9%)の順となっている。

その一方で、「市民参加による防災訓練の実施」(68.0%)、「消防団員の育成・確保」(72.5%)、「地域の自主防災組織の育成・強化」(79.1%)など、市民自らが直接関わる施策の優先順位は低くなっている。

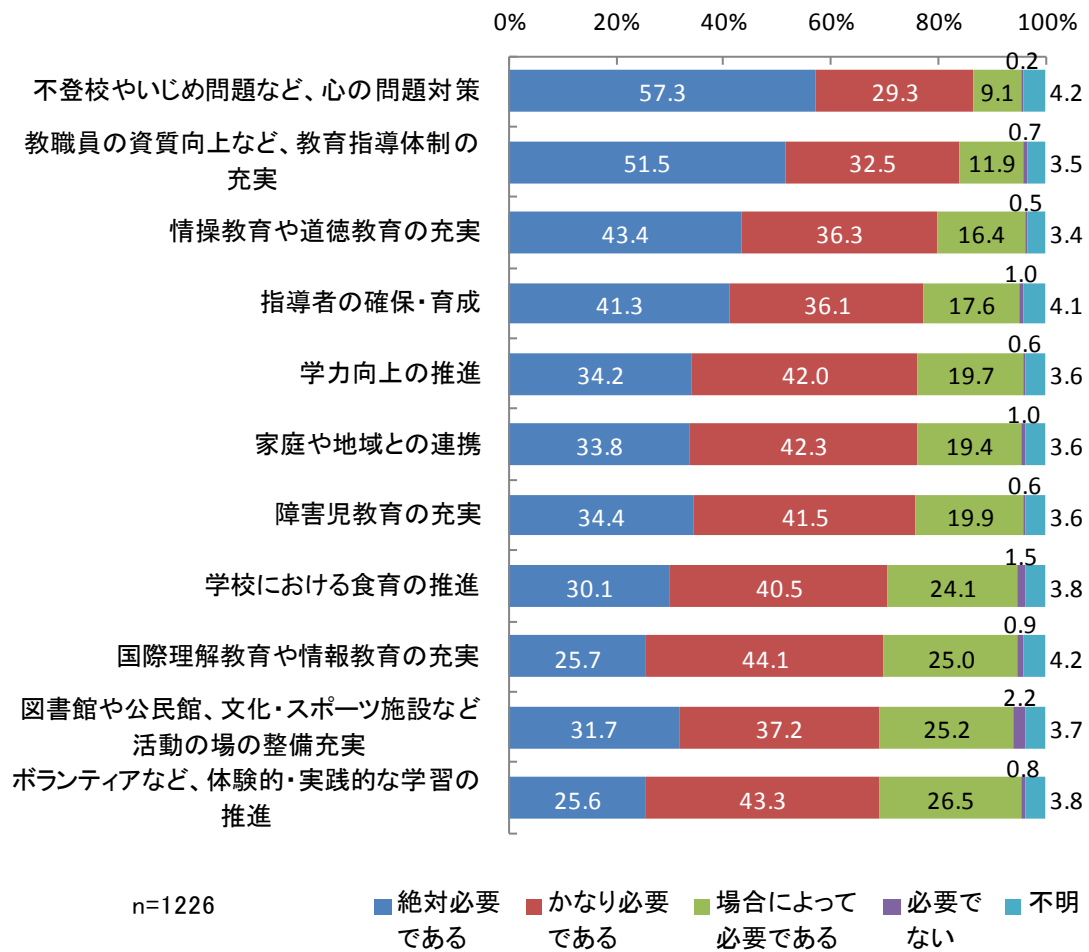
問10: 災害に強いまちづくりを推進するための具体的な取り組み(SA)



⑦ 学校教育・生涯学習の分野での具体的な取り組み

「絶対必要である」「かなり必要である」の合計値が最も高かったのは、「不登校やいじめ問題など、心の問題対策」の86.6%であり、以下「教職員の資質向上など、教育指導体制の充実」(84.0%)、「情操教育や道徳教育の充実」(79.7%)の順となっている。

問11: 学校教育・生涯学習の分野での具体的な取り組み(SA)



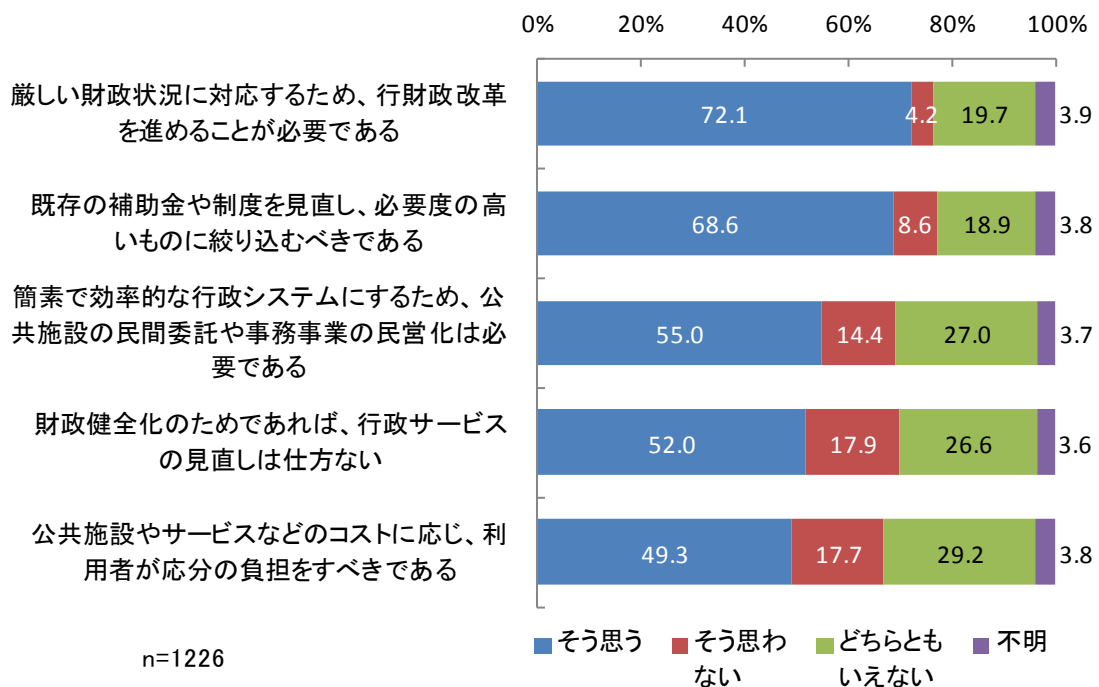
## 6. 市民と行政とのあり方について

### ① 行財政改革や現在の行政サービスの水準と負担の関係について

行財政改革や行政サービスの水準と負担の関係について支持が集まったのは「厳しい財政状況に対応するため、行財政改革を進める必要がある」(72.1%)、と「既存の補助金や制度を見直し、必要度の高いものに絞り込むべきである」(68.6%)で、他の項目より高くなっている。

ほぼ全ての項目において過半数以上の支持が得られているが、利用者の負担に関しては支持が半数を割った。

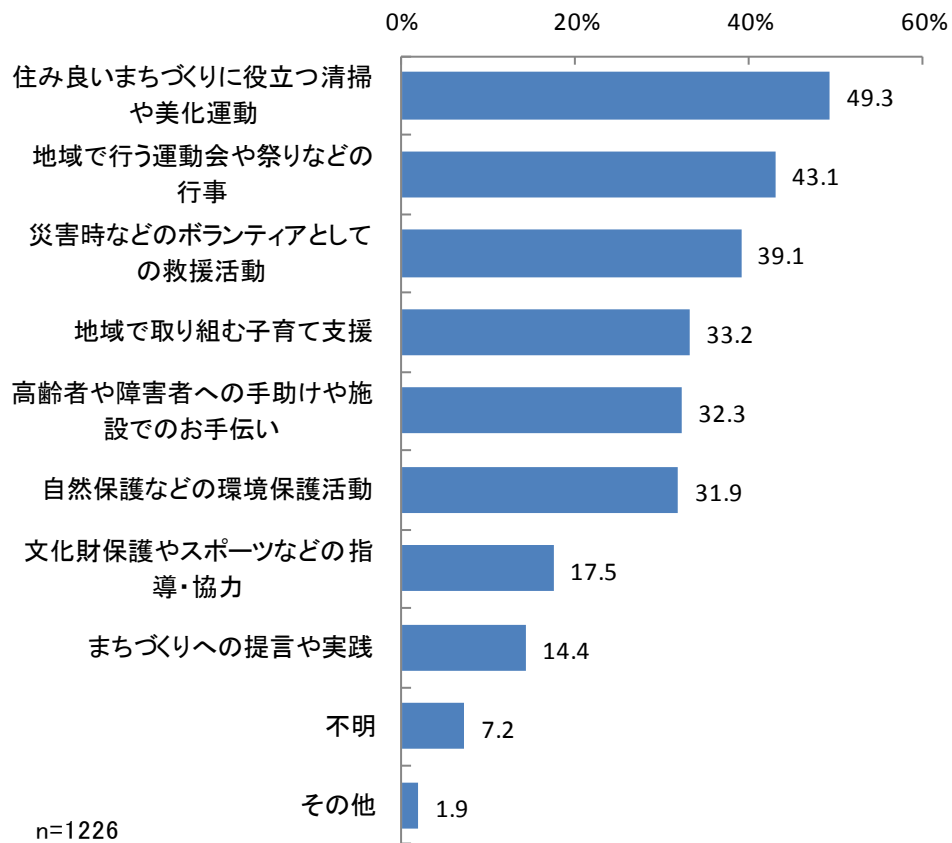
問12: 行財政改革や現在の行政サービスの水準と負担の関係について(SA)



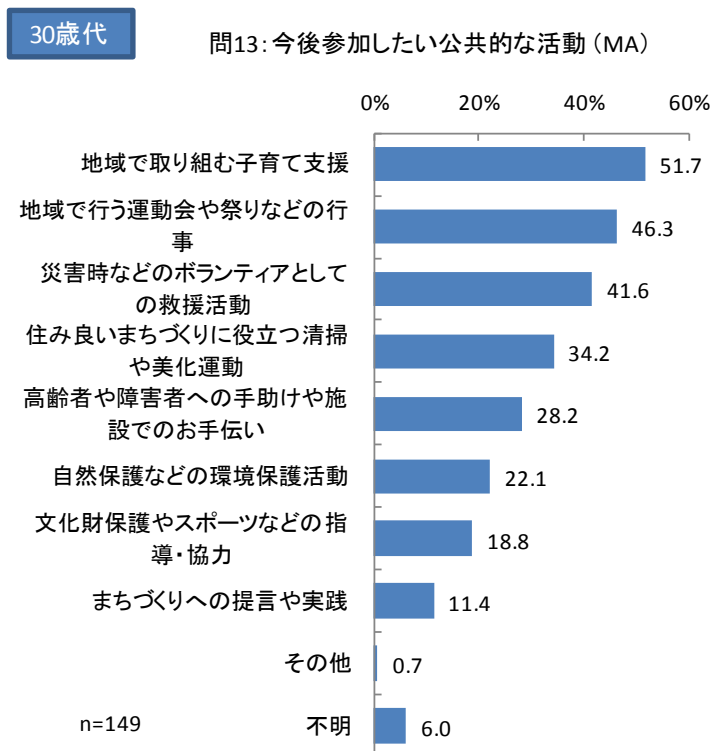
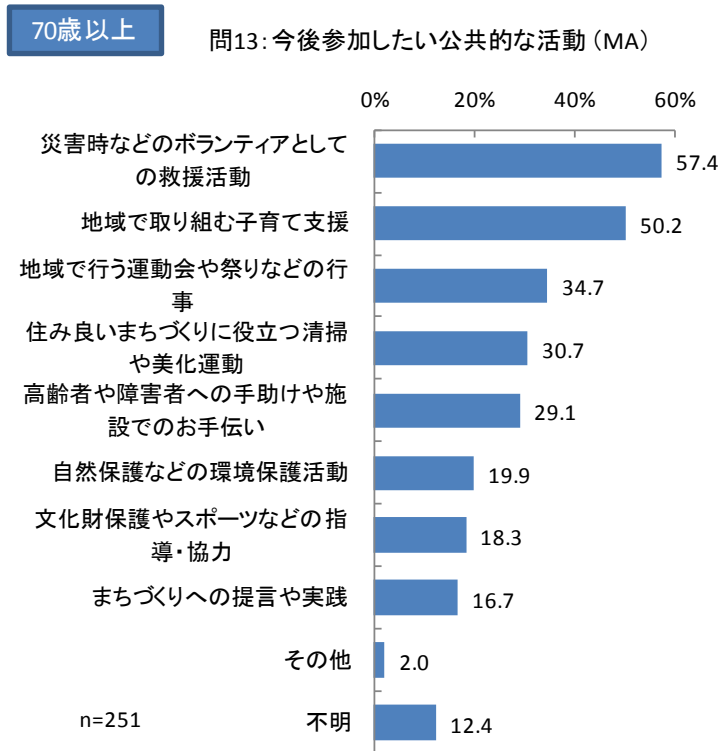
## ② 今後参加したい公共的な活動

住民と行政との協働の可能性をみる本問いに対しては、「住み良いまちづくりに役立つ清掃や美化運動」(49.3%)が最も高く、以下「地域で行う運動会や祭りなどの行事」(43.1%)、「災害時などのボランティアとしての救援活動」(39.1%)の順となっている。

問13: 今後参加したい公共的な活動(MA)



同じ質問を30歳代と70歳以上の年代別でみた場合で集計しても全体的に大きな違いはないが、70歳以上において「災害などのボランティアとしての救援活動」の割合が高い。



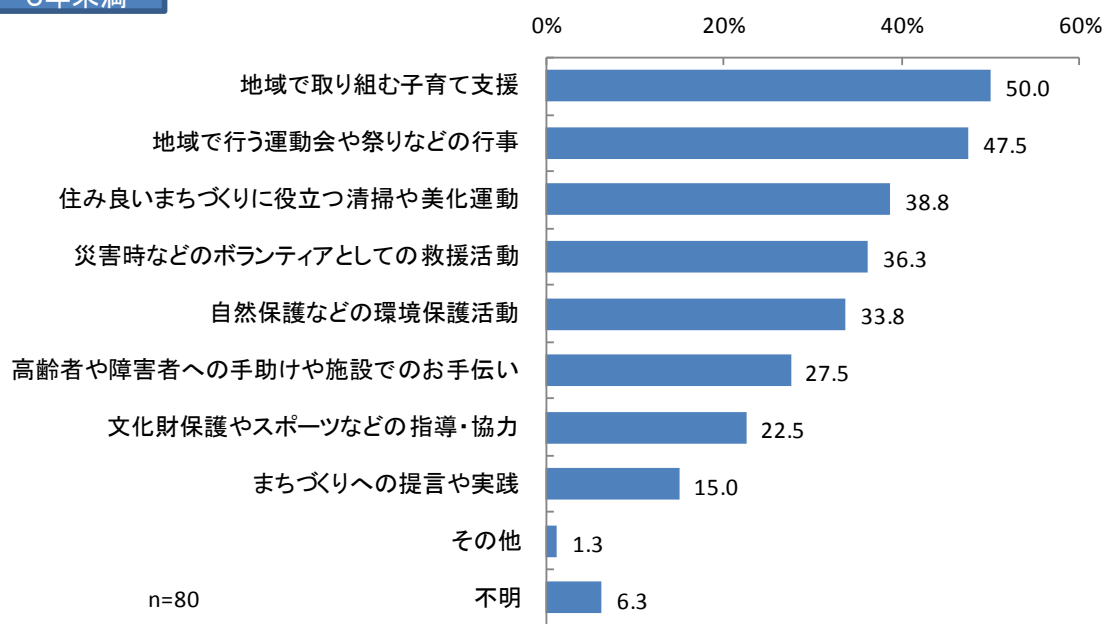


また、居住年数（1年以上5年未満、20年以上30年未満の別）でみた場合、比較的居住歴が浅い1年以上5年未満の居住者層は「地域で取り組む子育て支援」（50.0%）がもっとも高く、「地域で行う運動会や祭りなどの行事」（47.5%）が続いている。

一方、居住歴がある程度長い20年以上30年未満の居住者層では、「住み良いまちづくりに役立つ清掃や美化運動」（49.6%）や「災害時などのボランティアとしての救援活動」（41.1%）を挙げている。

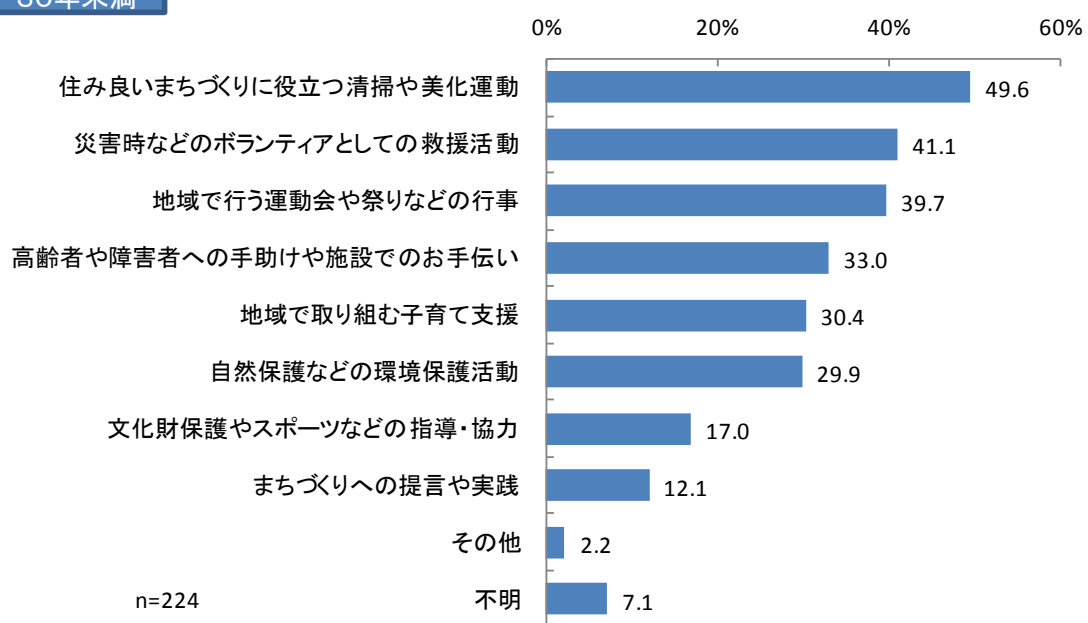
1年以上  
5年未満

問13: 今後参加したい公共的な活動 (MA)



20年以上  
30年未満

問13: 今後参加したい公共的な活動 (MA)

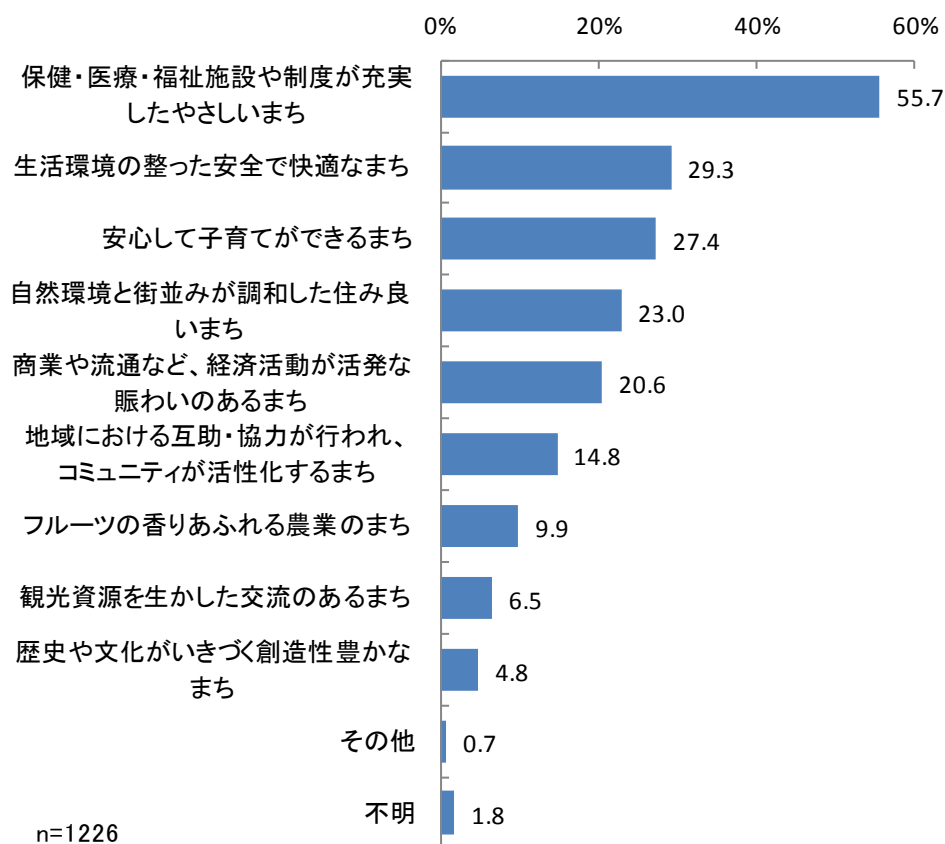


## 7. 山梨市の将来像や望ましい地域イメージについて

山梨市の将来像として、「10年後どのようなまちであって欲しいか」という問いに対して、「保健・医療・福祉施設や制度が充実したやさしいまち」を望む声が過半数を超え（55.7%）、以下「生活環境の整った安全で快適なまち」（29.3%）、「安心して子育てができるまち」（27.4%）を望む声が高かった。

保健、医療、福祉、子育てといった生活密着型の政策を望んでおり、「やさしさ」や「安全・安心」がキーワードとなっていることが推察される。

問14：山梨市が将来（10年後）、どのようなまちであって欲しい(MA:2つ)



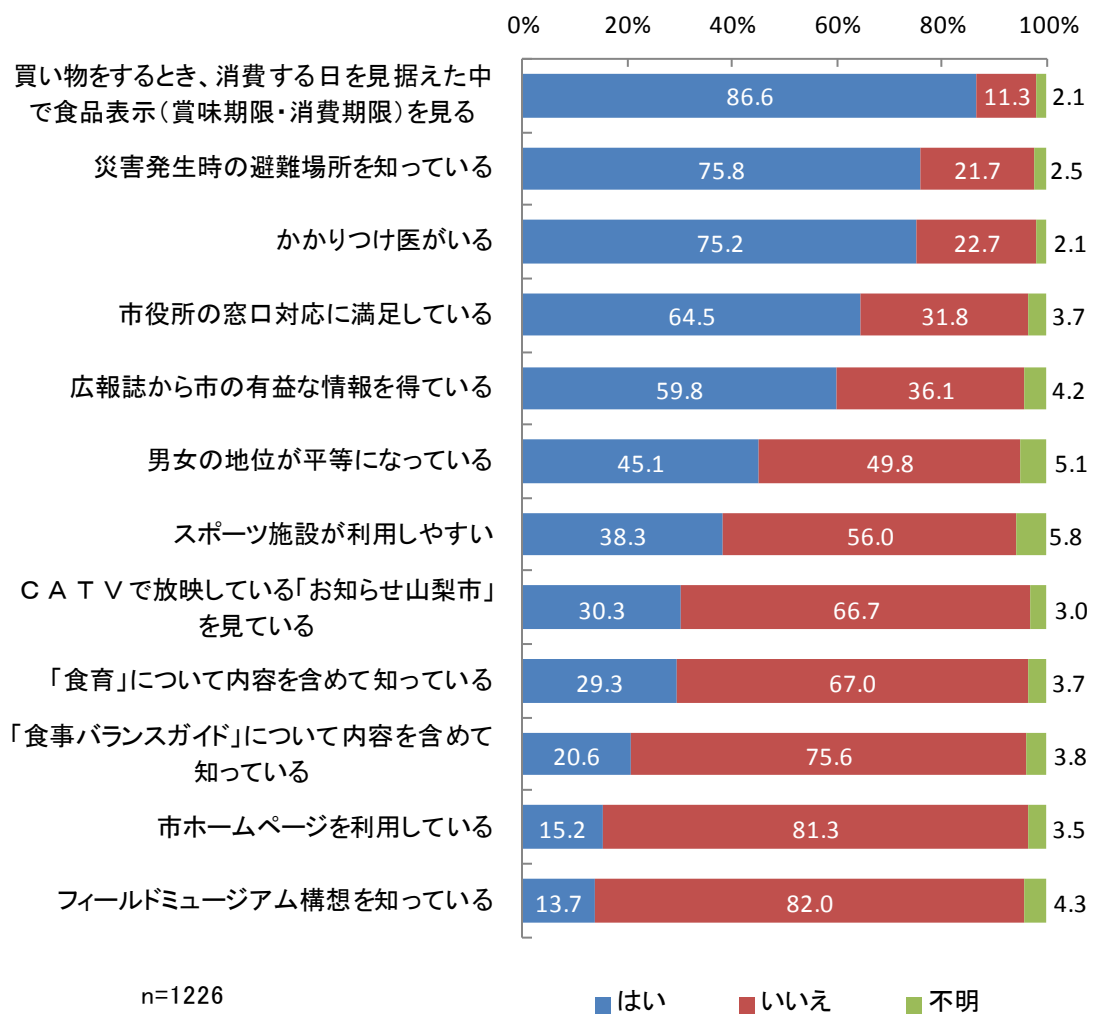
## 8. まちづくり指標について

総合計画に示されているまちづくり指標について、達成に貢献する意見が7割を超えたのは、「食品表示を見る」(86.6%)、「災害発生時の避難場所を知っている」(75.8%)、「かかりつけ医がいる」(75.2%)であった。

その一方で、「フィールドミュージアム構想を知っている」は13.7%に、「市ホームページを利用している」は15.2%にとどまっている。

また、全12項目中過半数を超える意見が集まったのは半数以下の5項目だった。

問15: まちづくりの指標に対する認識度(SA)

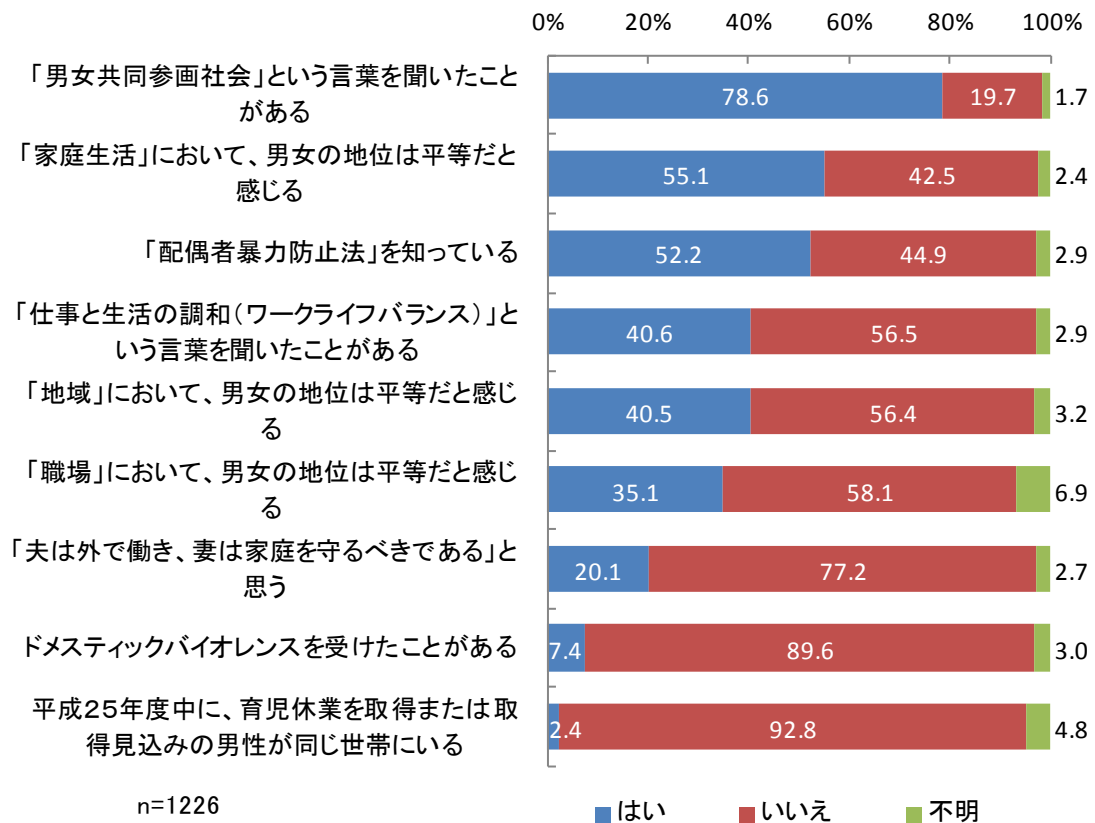


## 9. 男女共同参画について

「男女共同参画」という言葉の認知度は78.6%と高くなっている。

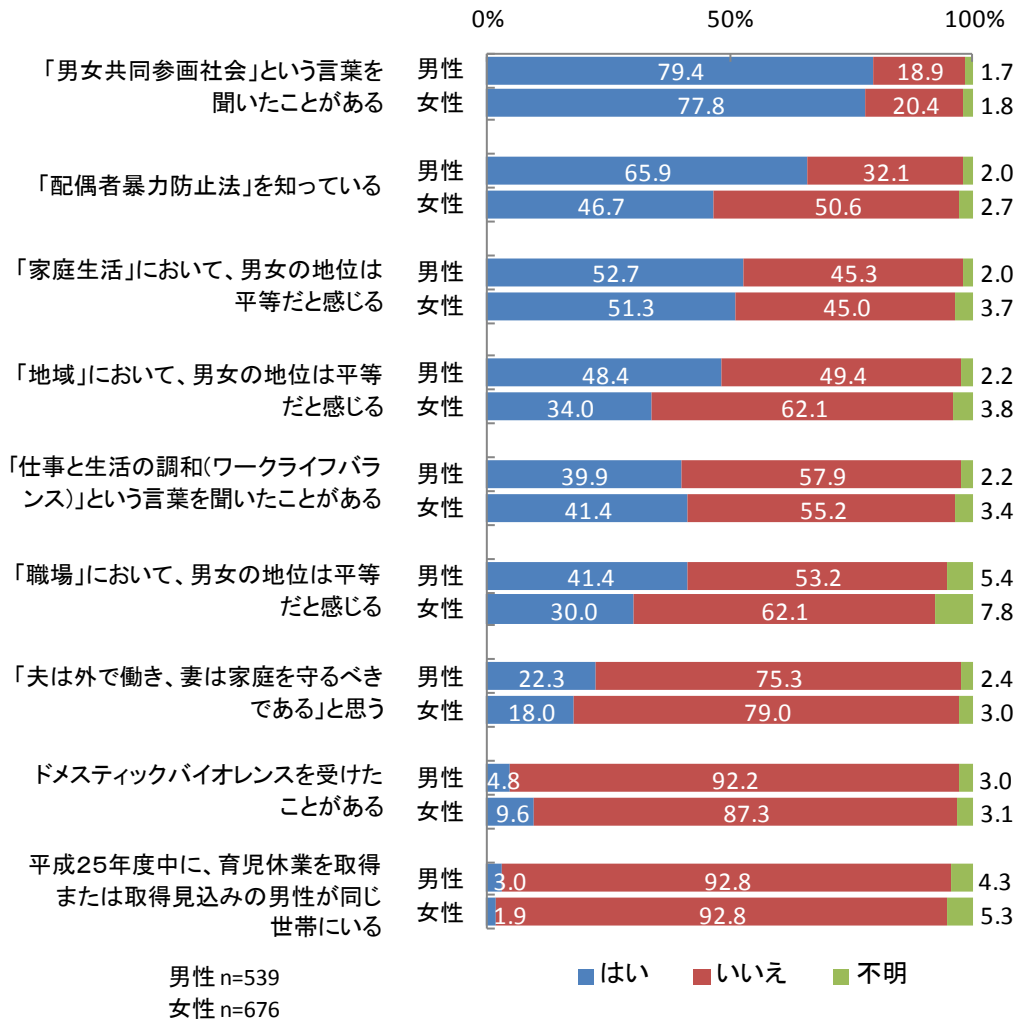
しかし、家庭や職場などにおける男女の平等感を質問したところ、「家庭生活」は約半数の55.1%が平等であると感じているが、「地域」(40.5%)及び「職場」(35.1%)は低い数値にとどまった。

問16: 男女共同参画に対する認知度(SA)



男女別に集計し意識の差をみると、「男女共同参画社会」という言葉の認識度こそ男性が高くなっているが、「家庭生活」、「地域」、「職場」とも地位が平等と感じている女性の割合はいずれも男性より低くなっている。

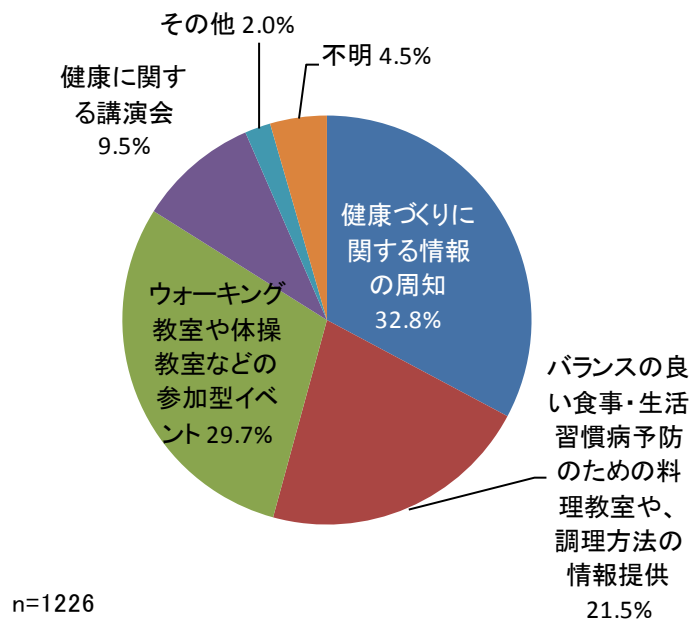
問16: 男女共同参画の考え・認識度・状況 (SA)



## 10. 健康づくりについて

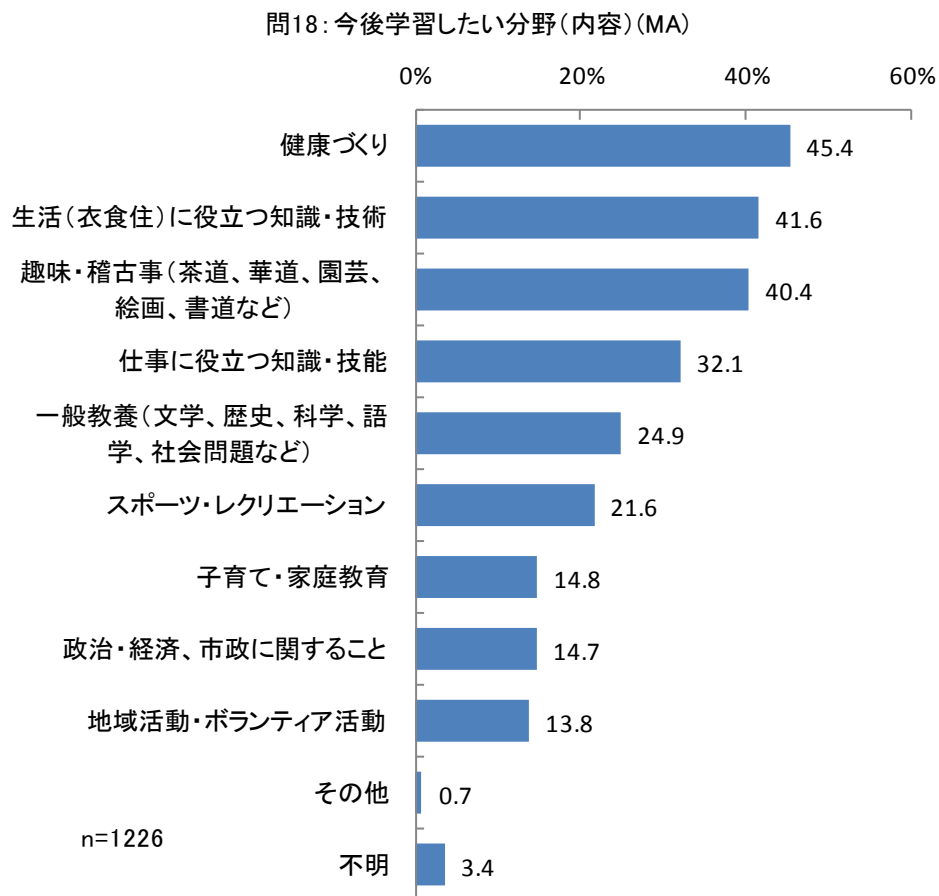
健康づくりにおいて市への希望をたずねた。「健康づくりに関する情報の周知」(32.8%)、「ウォーキング教室や体操教室などの参加型イベント」(29.7%)、「バランスの良い食事・生活習慣病予防のための料理教室や、調理方法の情報提供」(21.5%)の順となった。

問17: 健康づくりについて、どのような企画を市に希望しますか(SA)



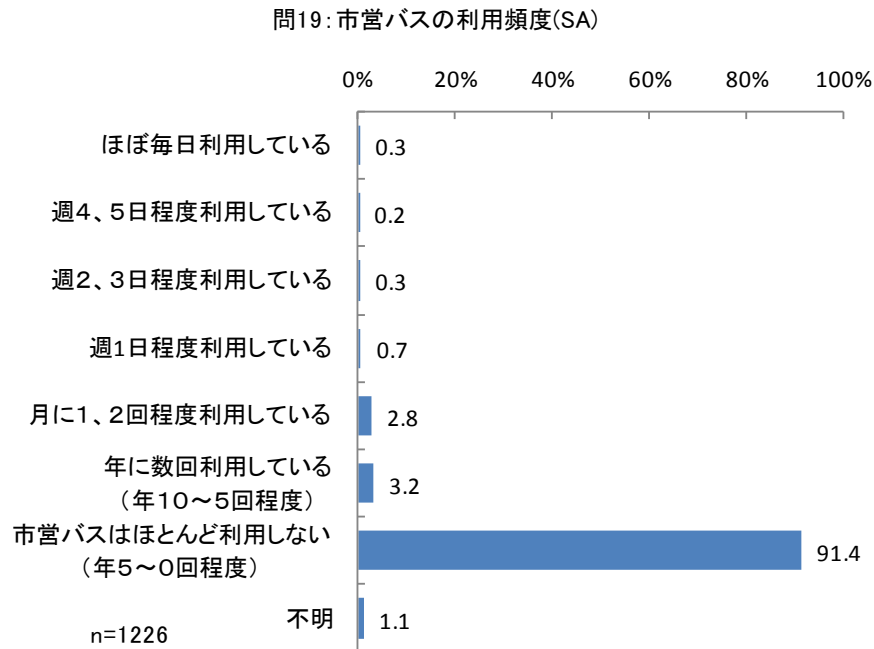
## 11. 生涯学習について

今後学習したい分野（内容）についてたずねた。「健康づくり」（45.4%）が最も割合が高く、「生活（衣食住）に役立つ知識・技術」（41.6%）、「趣味・稽古事（茶道、華道、園芸、絵画、書道など）」（40.4%）の順となり、「子育て・家庭教育」、「政治・経済、市政に関する事」、「地域活動、ボランティア活動」は15%に満たなかった。



## 12. 市営バスの利用について

市営バスの利用頻度についてたずねた。「市営バスはほとんど利用しない(年5~0回)」が91.4%を占めた。

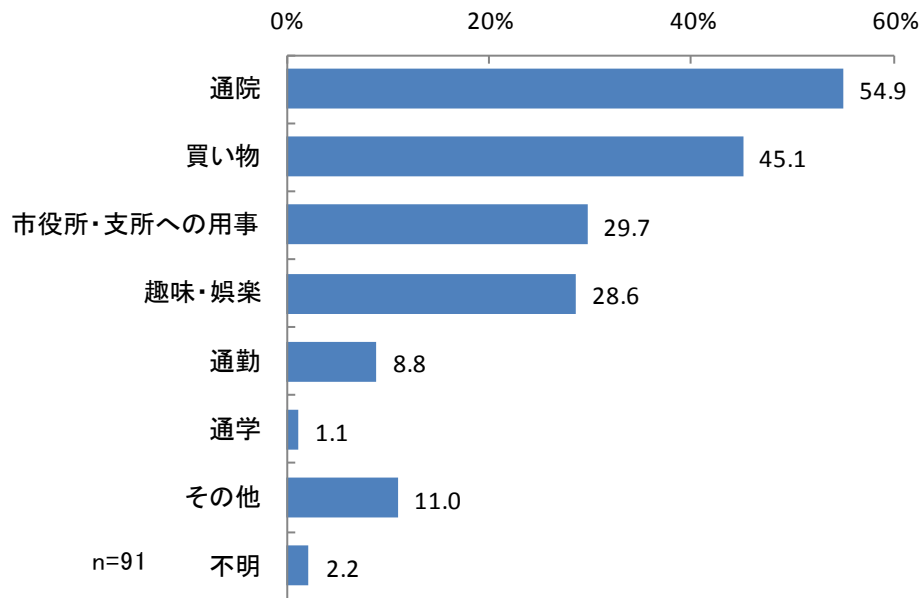




市営バスを利用する主な目的については「通院」(54.9%)、「買い物」(45.1%)、「市役所・支所への用事」(29.7%)、「趣味・娯楽」(28.6%)の順となった。

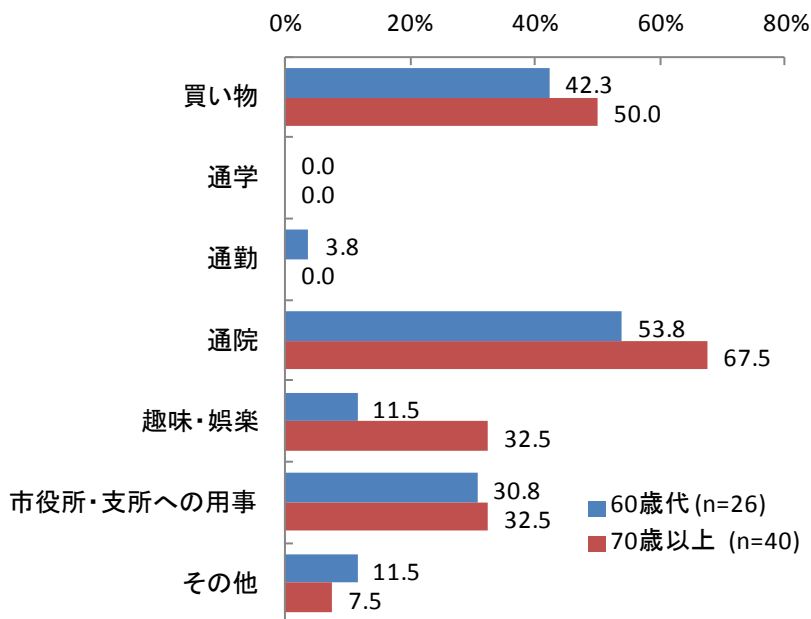
利用率の高い70歳以上の目的をみると、上位4項目で全体の割合を上回っており、高齢者の交通手段として活用されていることがうかがえる。

問19-1: 市営バスを利用する主な目的(MA)



60歳代  
70歳以上

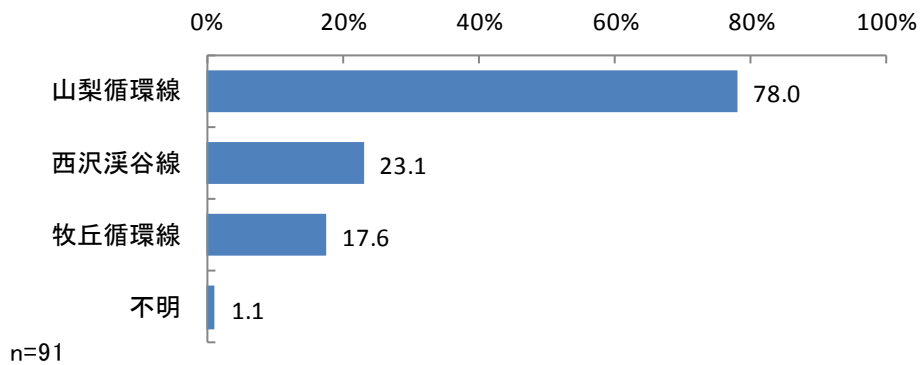
問19-1: 市営バスを利用する主な目的(MA)



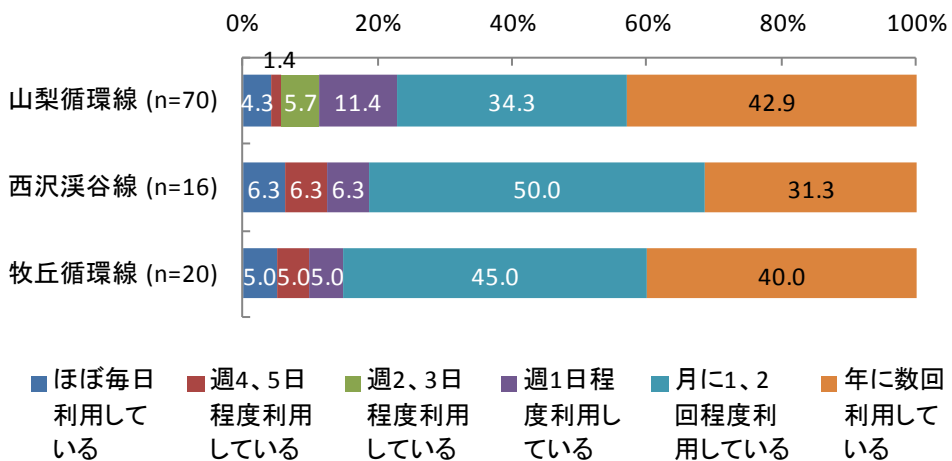
利用する市営バスの路線については、「山梨循環線」(78.0%)、「西沢溪谷線」(23.1%)、「牧丘循環線」(17.6%)の順となった。

路線毎の利用頻度をみてみると、いずれの路線においても1割以上は日常的に利用(週2日以上)していると回答している。

問19-2: 利用する市営バスの路線(MA)

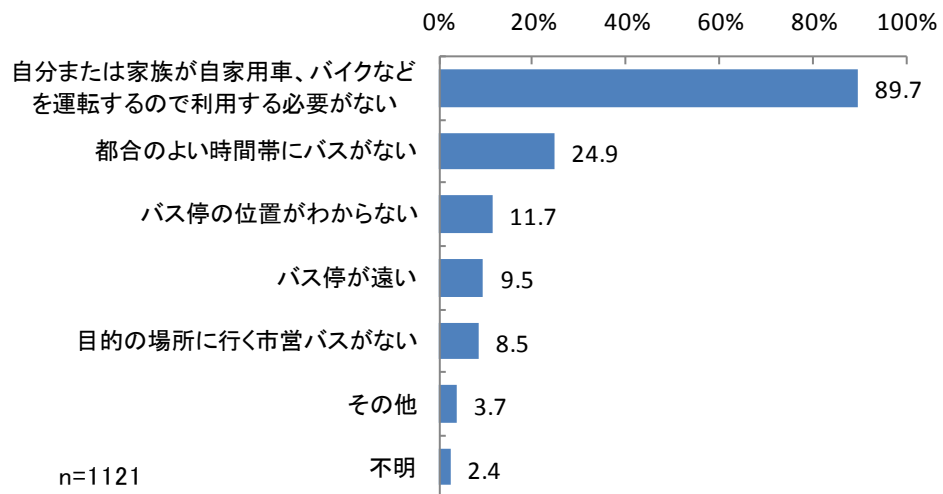


問19: 市営バスの利用頻度(SA) × 問19-2: 利用する市営バスの路線(MA)  
※バス利用者のみ



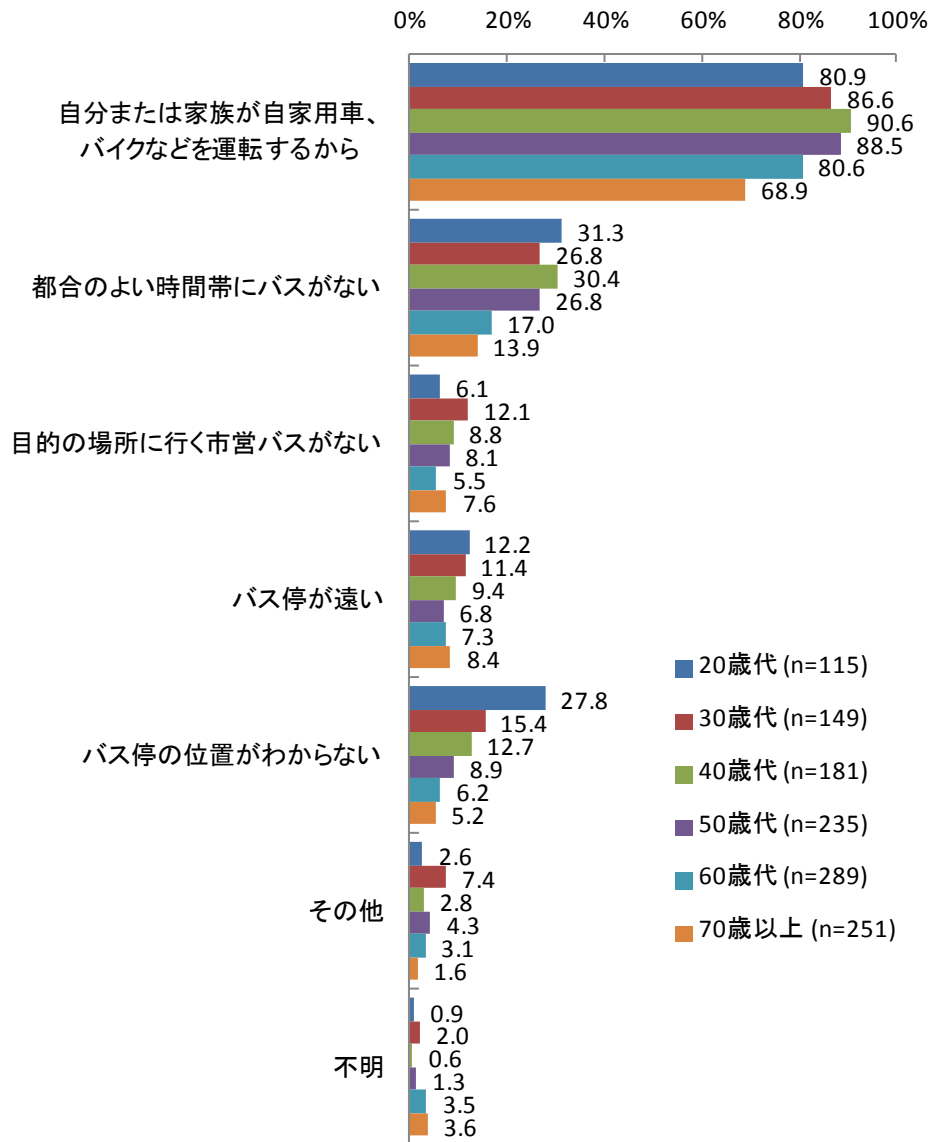
市営バスを利用しない理由は「利用する必要がない」(89.7%)が最も高かったが、「都合のよい時間帯にバスがない」(24.9%)、「バス停の位置がわからない」(11.7%)など、乗りたくても利用できない状況も伺える。

問19-3: 市営バスを利用しない理由(MA)



市営バスを利用しない理由を年齢別にみると、「自分または家族が運転するから」と回答した割合が全年齢共通して高い。また、「都合の良い時間帯にバスがない」とする割合も20歳代から50歳代の間で3割前後を占め、20歳代に限ると「バス停の位置がわからない」の割合がやや高かった。

問19-3: 市営バスを利用しない理由 (MA)



## 山梨市住民意向調査

平成 25 年 11 月 1 日

実施機関：山梨市役所（政策秘書課）

- ◎ ご多忙のところお手数をおかけしますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。
- ◎ 今回、調査にご協力いただく方は、市内にお住まいの 20 歳以上の方から 2,000 人を無作為に選ばせていただきました。
- ◎ ご回答の内容は、統計的に処理し、個別の回答者や回答内容が明らかになることはありません。また、個別の調査結果を公表したり、他の目的に使用することは一切ございません。

### 《ご記入にあたってのお願い》

1. ご回答は、封筒の宛名の方ご本人が記入してください。ただし、本人が何らかの理由で記入出来ない場合は、ご家族の方が記入してください。
2. 本調査票には、当てはまる番号や回答欄に○印を付けるものと、具体的な内容を記述していただくものがあります。  
設問にしたがって、鉛筆か、黒または青のボールペンではっきりと記入してください。
3. ご回答いただいた本調査票は、そのまま同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、  
**平成 25 年 11 月 22 日（金）までに** 投函してください。  
※ 市役所政策秘書課又は牧丘・三富支所の総務担当窓口にて、直接提出いただくこともできます。
4. 本調査の趣旨や記入方法などについてご不明の点がございましたら、お手数ですが、下記までご連絡ください。

#### 調査に関する問い合わせ先

山梨市役所 政策秘書課 政策形成担当（担当：岡）

〒405-8501 山梨市小原西 843 電話 0553 - 22 - 1111（内線 2415）

- 最初に、あなたご自身のことについておたずねします。  
すべての項目について、いずれか1つを選び○印で囲んでください。

①あなたの性別は

- |      |      |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|

②あなたの年齢は（平成 25 年 11 月 1 日現在）

- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20～29歳 | 2. 30～39歳 | 3. 40～49歳 |
| 4. 50～59歳 | 5. 60～69歳 | 6. 70歳以上  |

③あなたのお住まいは

- |          |          |          |         |
|----------|----------|----------|---------|
| 1. 加納岩地区 | 2. 日下部地区 | 3. 八幡地区  | 4. 山梨地区 |
| 5. 日川地区  | 6. 後屋敷地区 | 7. 岩手地区  | 8. 諏訪地区 |
| 9. 中牧地区  | 10. 西保地区 | 11. 三富地区 |         |

④あなたは、山梨市内（旧 3 市町村を含めて）に住んで通算何年になりますか。

- |               |               |              |
|---------------|---------------|--------------|
| 1. 1年未満       | 2. 1年以上5年未満   | 3. 5年以上10年未満 |
| 4. 10年以上20年未満 | 5. 20年以上30年未満 | 6. 30年以上     |

⑤あなたの家族構成は

- |           |         |             |               |
|-----------|---------|-------------|---------------|
| 1. 一人暮らし  | 2. 夫婦のみ | 3. 二世帯(親・子) | 4. 三世帯(親・子・孫) |
| 5. その他( ) |         |             |               |

⑥あなたの職業は（兼業の方は主な職業についてお答えください。）

- |                        |                        |             |       |
|------------------------|------------------------|-------------|-------|
| 1. 自営業(農林水産業)          | 2. 自営業(商工業・サービス業・建設業等) |             |       |
| 3. 自由業(医師・弁護士・税理士・僧侶等) | 4. 会社員                 | 5. 公務員・団体職員 |       |
| 6. パート・アルバイト・内職        | 7. 学生                  | 8. 専業主婦・主夫  | 9. 無職 |
| 10. その他(具体的に: )        |                        |             |       |

⑦「専業主婦・主夫」「無職」以外の方におたずねします。あなたの職場や通学先は

※「⑥職業」で「農業」と答えた方は主な農地を回答してください。

- |                   |                   |        |        |
|-------------------|-------------------|--------|--------|
| 1. 山梨市内           | 2. 甲府市            | 3. 笛吹市 | 4. 甲州市 |
| 5. その他の山梨県内(国中地域) | 6. その他の山梨県内(郡内地域) |        |        |
| 7. その他(具体的に: )    |                   |        |        |

■ 山梨市の魅力や、住みやすさについておたずねします。

問1 あなたが感じている“山梨市の魅力”にはどのようなものがありますか。すべての項目について、「はい」・「いいえ」のうち、あなたのお考えに近いものをどちらか選び○印で囲んでください。

1. 山岳や丘陵、河川など美しい景観に恵まれている	はい	いいえ
2. 身近な街並みや住環境がきれいである	はい	いいえ
3. 住民同士の交流や助け合いが盛んである	はい	いいえ
4. 歴史・文化の資源が豊富にある	はい	いいえ
5. 果樹栽培をはじめとする農産物に恵まれている	はい	いいえ
6. 自動車交通の便が良い	はい	いいえ
7. バスや鉄道などの公共交通機関の便が良い	はい	いいえ
8. 災害への備えに不安がない	はい	いいえ
9. 日常の買物などの便が良い	はい	いいえ
10. スポーツ活動が盛んである	はい	いいえ
11. 公園などの余暇施設が充実している	はい	いいえ
12. 高度な技術を持つ企業が立地している	はい	いいえ
13. 道路や上下水道などの社会基盤が整っている	はい	いいえ
14. 伝統芸能や祭事が受け継がれている	はい	いいえ
15. 学校教育や生涯学習などの環境が整っている	はい	いいえ

問2 あなたは、山梨市の“住みやすさ”についてどう思いますか。あてはまる番号を1つ選び○印で囲んでください。

1. 住みやすい	2. どちらかといえば住みやすい
3. どちらかといえば住みにくい	4. 住みにくい

問3 あなたは、山梨市に対する愛着を感じていますか。あてはまる番号を1つ選び○印で囲んでください。

1. とても感じる	2. やや感じる
3. あまり感じない	4. まったく感じない

■ 山梨市の主な施策に対する満足度、今後の施策の重要度についておたずねします。

問4 市の施策のうち次の26項目について、あなたが感じている満足度、今後の重要度についておたずねします。すべての項目について、満足度と重要度それぞれ1つずつ  
○印で囲んでください。

項目	満足度				重要度			
	満足している	やや満足している	やや不満である	不満である	きわめて重要である	かなり重要である	まあ重要である	あまり重要ではない
1. 公園整備、景観の保全	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
2. 文化遺産の保存、地域文化の継承	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
3. ごみ処理・環境美化の推進	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
4. 保健・医療の充実	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
5. 高齢者、障害者福祉の充実	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
6. 子育て環境の充実	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
7. 男女共同参画の推進	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
8. 地域特性のある農業・林業の振興	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
9. 魅力ある商工業の振興	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
10. 地域資源を生かした観光振興	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
11. 義務教育の充実	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
12. 生涯学習の推進、文化・スポーツの振興	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
13. 公共交通機関の充実(市営バス等)	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
14. 国道・県道など幹線道路の整備	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
15. 身近な生活道路の整備	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
16. 歩道等の整備、充実	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
17. 案内・誘導表示などサインの設置	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
18. 水道の安定供給	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
19. 下水道などの排水処理	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
20. 公営住宅や宅地の整備	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
21. 防災体制の充実	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
22. 防犯体制の充実	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
23. 開かれた行政の推進	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
24. 行財政運営の効率化	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
25. NPOなど市民活動の支援	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D
26. 太陽光などの自然エネルギーの普及促進	イ	ロ	ハ	ニ	A	B	C	D



■ 次に、山梨市の具体的取り組みについて、あなたのお考えをおたずねします。

問5 あなたは、環境問題やエネルギー問題に対応するため、具体的にどのような取り組みが必要だとお考えですか。

すべての項目について、あなたのお考えに近いものを、いずれか1つを選び○印で囲んでください。

項目	必要度			
	絶対必要である	かなり必要である	場合によって必要である	必要でない
1. 環境保全のための健全な森林づくり	イ	ロ	ハ	ニ
2. マイバッグ運動やリユース食器の導入などによるごみの発生抑制	イ	ロ	ハ	ニ
3. ごみの分別の徹底などによるリサイクルの推進	イ	ロ	ハ	ニ
4. アイドリングストップや緑のカーテン設置など省エネルギーの普及・啓発	イ	ロ	ハ	ニ
5. 企業における環境保全活動の支援	イ	ロ	ハ	ニ
6. 学校や地域における環境教育の推進	イ	ロ	ハ	ニ
7. 大気汚染・水質汚濁・土壌汚染などの防止対策の推進	イ	ロ	ハ	ニ
8. 太陽光・風力・小水力発電など新エネルギーの普及促進	イ	ロ	ハ	ニ
9. その他(具体的にご記入ください:	)			

問6 あなたは、山梨市の産業（農林業・商業・工業・観光業）が発展するため、具体的にどのような取り組みが必要だとお考えですか。

すべての項目について、あなたのお考えに近いものを、いずれか1つを選び○印で囲んでください。

項目	必要度			
	絶対必要である	かなり必要である	場合によっては必要である	必要でない
1. 農道や林道、水路整備など、農林業の基盤整備	イ	ロ	ハ	ニ
2. 農林業における担い手の育成	イ	ロ	ハ	ニ
3. 農林業における販売ルートの拡大	イ	ロ	ハ	ニ
4. 地域で生産されたものを地域で消費する地産地消の推進	イ	ロ	ハ	ニ
5. 農業法人など、新たな農業経営形態の推進	イ	ロ	ハ	ニ
6. 既存商店街組織の充実・強化の支援	イ	ロ	ハ	ニ
7. 大型量販店など商業施設の誘致	イ	ロ	ハ	ニ
8. 新規企業・事務所誘致の推進	イ	ロ	ハ	ニ
9. 山梨市の魅力を生かした観光客の誘致など観光の振興	イ	ロ	ハ	ニ
10. 買い物弱者対策など、地域に密着した新しいサービスへの取り組み支援	イ	ロ	ハ	ニ
11. 都市住民との交流及び定住促進施策としての農地活用の促進	イ	ロ	ハ	ニ
12. その他(具体的にご記入ください: )				

問7 あなたは、山梨市の観光を盛んにするため、具体的にどのような取り組みが必要だとお考えですか。

すべての項目について、あなたのお考えに近いものを、いずれか1つを選び○印で囲んでください。

<div style="text-align: center;">必要度</div> <div style="text-align: center;">項目</div>	絶対必要である	かなり必要である	場合によっては必要である	必要でない
1. 観光農園やグリーンツーリズムなど、農林業との連携	イ	ロ	ハ	ニ
2. イベントやお祭りの充実	イ	ロ	ハ	ニ
3. 地域にある歴史・文化遺産の活用	イ	ロ	ハ	ニ
4. 近隣市などとの広域連携による観光ルートの設定	イ	ロ	ハ	ニ
5. 郷土料理や特産品等の開発など地域ブランドづくり	イ	ロ	ハ	ニ
6. 接客サービス向上など、おもてなし体制の整備	イ	ロ	ハ	ニ
7. 観光振興を視野に入れた幹線道路の整備	イ	ロ	ハ	ニ
8. 観光情報の発信など、宣伝活動の推進	イ	ロ	ハ	ニ
9. その他(具体的にご記入ください:           )				

問8 あなたは、高齢化が進む社会に対応するため、具体的にどのような取り組みが必要だとお考えですか。

すべての項目について、あなたのお考えに近いものを、いずれか1つを選び○印で囲んでください。

項目	必要度			
	絶対必要である	かなり必要である	場合によっては必要である	必要でない
1. 高齢者が参加できるスポーツの振興など健康増進事業の充実	イ	ロ	ハ	ニ
2. 高齢者が有する知識や経験を提供できる生涯学習活動の充実	イ	ロ	ハ	ニ
3. 高齢者の働く場の確保、就労あっせんなどの支援充実	イ	ロ	ハ	ニ
4. 高齢者向け相談体制の整備	イ	ロ	ハ	ニ
5. 寝たきりや一人暮らしの高齢者に対する福祉サービスの充実	イ	ロ	ハ	ニ
6. 老人ホームやデイサービスセンターなど福祉施設の整備	イ	ロ	ハ	ニ
7. 市営バスなど公共交通機関の充実	イ	ロ	ハ	ニ
8. 子どもたちとのふれあい事業など世代間交流の促進	イ	ロ	ハ	ニ
9. 段差解消など、公共施設や住宅におけるバリアフリー化の推進	イ	ロ	ハ	ニ
10. 高齢者を支援・介護するボランティアの育成	イ	ロ	ハ	ニ
11. その他(具体的にご記入ください: )				

問9 あなたは、安心して子どもを産み育てたいと思える環境をつくるため、具体的にどのような取り組みが必要だとお考えですか。

すべての項目について、あなたのお考えに近いものを、いずれか1つを選び○印で囲んでください。

項目	必要度			
	絶対必要である	かなり必要である	場合によっては必要である	必要でない
1. 育児休暇の実施・女性の(再)就職しやすい環境づくり	イ	ロ	ハ	ニ
2. 未満児保育、延長保育や学童クラブなど、保育サービスの充実	イ	ロ	ハ	ニ
3. 小児科や産婦人科など医療体制の整備	イ	ロ	ハ	ニ
4. 公園など子どもを安心して遊ばせることができる環境の整備	イ	ロ	ハ	ニ
5. 登下校時における見守りや交通事故防止などの安全対策	イ	ロ	ハ	ニ
6. 育児に関する相談体制の充実	イ	ロ	ハ	ニ
7. 育児を支援するボランティアの育成	イ	ロ	ハ	ニ
8. その他(具体的にご記入ください: )				

問10 あなたは、災害に強いまちづくりを推進するため、具体的にどのような取り組みが必要だとお考えですか。

すべての項目について、あなたのお考えに近いものを、いずれか1つを選び○印で囲んでください。

項目	必要度			
	絶対必要である	かなり必要である	場合によっては必要である	必要でない
1. 地域の自主防災組織の育成・強化	イ	ロ	ハ	ニ
2. 避難所や避難路の周知・整備	イ	ロ	ハ	ニ
3. 耐震化の推進など、危険な地域や建物の調査・改善	イ	ロ	ハ	ニ
4. 防災情報の伝達体制の整備	イ	ロ	ハ	ニ
5. 給水体制の整備や食料品・衣料品など災害対策用品の備蓄	イ	ロ	ハ	ニ
6. 消火栓や防火水槽、用水路の整備	イ	ロ	ハ	ニ
7. 市民参加による防災訓練の実施	イ	ロ	ハ	ニ
8. 消防団員の育成・確保	イ	ロ	ハ	ニ
9. 救命救急・搬送体制の整備	イ	ロ	ハ	ニ
10. 緊急輸送路の確保・整備	イ	ロ	ハ	ニ
11. その他(具体的にご記入ください:	)			

問 1 1 あなたは、学校教育・生涯学習の分野で、具体的にどのような取り組みが必要だとお考えですか。

すべての項目について、あなたのお考えに近いものを、いずれか1つを選び○印で囲んでください。

項目	必要度			
	絶対必要である	かなり必要である	場合によっては必要である	必要でない
1. 学力向上の推進	イ	ロ	ハ	ニ
2. 国際理解教育や情報教育の充実	イ	ロ	ハ	ニ
3. 情操教育や道徳教育の充実	イ	ロ	ハ	ニ
4. ボランティアなど、体験的・実践的な学習の推進	イ	ロ	ハ	ニ
5. 家庭や地域との連携	イ	ロ	ハ	ニ
6. 教職員の資質向上など、教育指導体制の充実	イ	ロ	ハ	ニ
7. 障害児教育の充実	イ	ロ	ハ	ニ
8. 学校における食育の推進	イ	ロ	ハ	ニ
9. 指導者の確保・育成	イ	ロ	ハ	ニ
10. 図書館や公民館、文化・スポーツ施設など活動の場の整備充実	イ	ロ	ハ	ニ
11. 不登校やいじめ問題など、心の問題対策	イ	ロ	ハ	ニ
12. その他(具体的にご記入ください: )				

■ 市民と行政のあり方についておたずねします。

問 1 2 道路や公共施設などの老朽化による維持補修費用や超高齢社会の到来による社会保障費など、今後の財政需要は自然増が予測されています。このような厳しい財政状況下において、行財政改革や現在の行政サービスの水準と負担の関係についてどのようにお考えですか。

すべての項目について、あなたのお考えに近いものを、いずれか1つを選び○印で囲んでください。

	そう思う	そう 思わない	どちらとも いえない
1. 厳しい財政状況に対応するため、行財政改革を進めることが必要である	1	2	3
2. 既存の補助金や制度を見直し、必要度の高いものに絞り込むべきである	1	2	3
3. 公共施設やサービスなどのコストに応じ、利用者が応分の負担をすべきである	1	2	3
4. 財政健全化のためであれば、行政サービスの見直しは仕方ない	1	2	3
5. 簡素で効率的な行政システムにするため、公共施設の民間委託や事務事業の民営化は必要である	1	2	3

問 1 3 あなたは、今後、どのような公共的な活動に参加したいとお考えですか。  
次の中からお考えに近いものをいくつでも選び番号を○印で囲んでください。

<p>1. 地域で行う運動会や祭りなどの行事</p> <p>2. 住み良いまちづくりに役立つ清掃や美化運動</p> <p>3. 災害時などのボランティアとしての救援活動</p> <p>4. 高齢者や障害者への手助けや施設でのお手伝い</p> <p>5. 地域で取り組む子育て支援</p> <p>6. 自然保護などの環境保護活動</p> <p>7. 文化財保護やスポーツなどの指導・協力</p> <p>8. まちづくりへの提言や実践</p> <p>9. その他(具体的にご記入ください: )</p>
--





■ 第1次山梨市総合計画に示されている、まちづくりの指標等についておたずねします。

問15 次の項目について、あなたのお考え、あるいは認識度、状況についておたずねします。すべての項目について、「はい」・「いいえ」のうち、あなたのお考えに近いものをどちらか選び○印で囲んでください。

1. 男女の地位が平等になっている	はい	いいえ
2. かかりつけ医がいる	はい	いいえ
3. スポーツ施設が利用しやすい	はい	いいえ
4. 市役所の窓口対応に満足している	はい	いいえ
5. 災害発生時の避難場所を知っている	はい	いいえ
6. フィールドミュージアム構想を知っている	はい	いいえ
7. 広報誌から市の有益な情報を得ている	はい	いいえ
8. CATVで放映している「お知らせ山梨市」を見ている	はい	いいえ
9. 市ホームページを利用している	はい	いいえ
10. 「食育」について内容を含めて知っている	はい	いいえ
11. 「食事バランスガイド」について内容を含めて知っている	はい	いいえ
12. 買い物をするとき、消費する日を見据えた中で食品表示(賞味期限・消費期限)を見る	はい	いいえ

■ 男女共同参画についておたずねします。

問16 次の項目について、あなたのお考え、あるいは認識度、状況についておたずねします。すべての項目について、「はい」・「いいえ」のうち、あなたのお考えに近いものをどちらか選び○印で囲んでください。

1. 「男女共同参画社会」という言葉を聞いたことがある	はい	いいえ
2. <u>※ドメスティックバイオレンスを受けたことがある</u>	はい	いいえ
3. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思う	はい	いいえ
4. 「地域」において、男女の地位は平等だと感じる	はい	いいえ
5. 「家庭生活」において、男女の地位は平等だと感じる	はい	いいえ
6. 「職場」において、男女の地位は平等だと感じる	はい	いいえ
7. 「配偶者暴力防止法」を知っている	はい	いいえ
8. 平成25年度中に、育児休業を取得または取得見込みの男性が同じ世帯にいる	はい	いいえ
9. 「仕事と生活の調和(ワークライフバランス)」という言葉聞いたことがある	はい	いいえ

※ドメスティックバイオレンス…夫婦・恋人同士など親しい間で、身体的・心理的暴力を受けること

問17 あなたは、健康づくりについて、どのような企画を市に希望しますか。

次の中からあてはまる番号を1つ選び番号を○印で囲んでください。

1. 健康づくりに関する情報の周知
2. バランスの良い食事・生活習慣病予防のための料理教室や、調理方法の情報提供
3. ウォーキング教室や体操教室などの参加型イベント
4. 健康に関する講演会
5. その他(具体的にご記入ください: )

問18 あなたが、今後学習したい分野(内容)は何ですか。

次の中から3つまで選び番号を○印で囲んでください。

1. 一般教養(文学、歴史、科学、語学、社会問題など)
2. 趣味・稽古事(茶道、華道、園芸、絵画、書道など)
3. 地域活動・ボランティア活動
4. 仕事に役立つ知識・技能
5. 生活(衣食住)に役立つ知識・技術
6. 子育て・家庭教育
7. 健康づくり
8. スポーツ・レクリエーション
9. 政治・経済、市政に関すること
10. その他(具体的にご記入ください: )

問19 市営バスの利用頻度についてお答えください。次の中からあてはまる番号を1つ選び○印で囲んでください。

1. ほぼ毎日利用している
2. 週4、5日程度利用している
3. 週2、3日程度利用している
4. 週1日程度利用している
5. 月に1、2回程度利用している
6. 年に数回利用している(年10～5回程度)
7. 市営バスはほとんど利用しない(年5～0回程度)

問19-1 問19で「1」～「6」と答えた方に伺います。

市営バスを利用する主な目的は次のどれですか。次の中からいくつでも選り番号を○印で囲んでください。

- |                       |               |
|-----------------------|---------------|
| 1. 買い物                | 2. 通学         |
| 3. 通勤                 | 4. 通院         |
| 5. 趣味・娯楽              | 6. 市役所・支所への用事 |
| 7. その他(具体的にご記入ください: ) |               |

問19-2 問19で「1」～「6」と答えた方に伺います。

利用する市営バスの路線は次のどれですか。次の中からいくつでも選り番号を○印で囲んでください。

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 1. 山梨循環線 | 2. 牧丘循環線 | 3. 西沢溪谷線 |
|----------|----------|----------|

問19-3 問19で「7. 市営バスはほとんど利用しない」と答えた方に伺います。

市営バスを利用しない理由をお答えください。次の中からいくつでも選り番号を○印で囲んでください。

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 自分または家族が自家用車、バイクなどを運転するので利用する必要がない |
| 2. 都合のよい時間帯にバスがない                     |
| 3. 目的の場所に行く市営バスがない(目的地: )             |
| 4. バス停が遠い                             |
| 5. バス停の位置がわからない                       |
| 6. その他(具体的にご記入ください: )                 |

問20 その他、山梨市のまちづくりや行政運営に関するご意見やご要望がございましたら、次の欄に自由にお書きください。


調査は、以上です。

ご協力いただき、誠にありがとうございました。

- この調査票は、同封の返信用封筒にそのまま入れ、  
11月22日(金)までに、ご投函くださいますようお願いいたします。

(切手は不要です)

- 市役所政策秘書課又は牧丘・三富支所の総務担当窓口  
に、直接提出いただくこともできます。